

科目名	子ども家庭支援論				担当者	小山織・重原達也						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。											
専門的 学習成果	①	現代社会において、何故、社会的に子育て支援・家族支援体制が必要になったのか、その背景を説明できる。										
	②	現代社会において、実際にどのような社会的子育て支援・家族支援が行われているのかを説明できる。										
	③	専門職としての在り方を実践的に学び、現場での子育て支援・家族支援の取り組みについて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子育て家庭の変容を理解し、子どもの健やかな成長を支えるためにどんな支援が必要なのかを理解し、専門職としての保育士の役割について説明できる（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子育て支援の政策動向や、支援を行っている関係機関について学び、専門職として、子ども・家庭の実際に合わせた支援のコーディネートを組み立てることができる（専門的学習効果②に関連）										
	(3)	様々な事例から専門職としてどう向き合うかを学び、支援者としての基本的な技能や実践力を身につけ、実践に取り組むための方法について説明できる（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	今、何故「家族援助」なのか、そして「子育て支援」なのか。家庭の機能の変化に伴い、「家族」とは何かを考え、家族の崩壊、地域における子育て支援の希薄化の中で、保育所等の役割について学ぶ。また、子育て支援をめぐる政策動向についても学び、社会的支援の在り方について考察する。具体的な家庭支援の在り方を事例から学び、支援の基礎的な技能を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	15回授業の内容を基に試験を行う。								
		平常点	20	授業への取り組み状況を評価。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	松本園子 永田陽子 福川須美 堀口美智子		『家庭支援論』							ななみ書房		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		テキストを活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に授業内容に関する文献を読み理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）事後学習としては、授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。（復習：週2時間程度）										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	シラバス	各回授業の取り組みと参加について都度評価を行う。
	学習成果	本授業の内容を理解し、説明できる。	
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。	
	授業内容	子育てと家族・家庭 子どもが育つとは	
3回	学習成果	子育ては大人の一方的な行為ではなく、子どもは自ら「育つ」のであり、それが適切に実現されるように援助するのが子育てであることを説明できる。	
	予習復習の内容	子どもが育つということは、どういうことなのか、子育てとは何かについて説明できるようにする。	
4回	授業内容	子育てと家族・家庭 子どもが育つ場としての「家族」「家庭」	
	学習成果	子どもが育つ場としての家族・家庭の意義について考え理解を深め説明できる。	
5回	予習復習の内容	子どもが育つ場は「社会」であり、社会全体が負うべきものであるということを理解し、家族への社会的支援の必要について言語化できるようにする。	
	授業内容	子育てと家族・家庭 家族・家庭の動向と現状	
6回	学習成果	家族の動向について、近年大きく変化してきた「家族」の在り方、形態について説明できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深めていく。	
7回	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て環境を取り巻く社会環境の変化	
	学習成果	子育てを取り巻く環境が子ども達の育ちや子育てにどのような影響を及ぼすか説明できる。	
8回	予習復習の内容	都市化や少子化、情報化、消費化、高学歴の進行、また近年の社会的な格差の拡大がどのような影響を及ぼしているのかについて、整理していく。	
	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て意識の変化	
9回	学習成果	子育てを取り巻く社会の構造的な変化の中で、どのような子育て意識の変化が起きたのか説明できる。	
	予習復習の内容	女性が育児をしながら働くことに対して大きな変化が見られたことを理解し、整理していく。	
10回	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て「困難」のさまざまな	
	学習成果	子どもや子育て家庭に、今なぜ社会的な支援が強く求められているのか、これまでの支援の在り方の課題について説明できる。	
11回	予習復習の内容	子育て家庭が抱える課題について振り返りを行う。	
	授業内容	子育て家庭を支援する具体的な制度	
12回	学習成果	結婚、妊娠、出産、子育てと家庭の状況の変化に伴い、段階に応じてどのような公的支援があるのか、具体的に説明できる。	
	予習復習の内容	身近な子育て家庭に目を向け、実際にどのような支援が利用されているのかを把握し、9回で事例を報告しあう。	
13回	授業内容	子育て家庭支援の政策動向	
	学習成果	子育てを支援する国の責任にういて認識し、これまでの政策の動向を理解し、子ども・子育て支援制度が施行された理由を説明できる。	
14回	予習復習の内容	子育て支援に関わる法や政策の名称を教科書を読み、確認する。	
	授業内容	子ども・子育て支援新制度	
15回	学習成果	子ども・子育て支援新制度による幼稚園・保育所・こども園等の施設の分類や法的な位置づけについて説明できる。また、標準時間、短時間認定、1号認定、2号認定、3号認定等、現場に出るにあたっての基本的な知識を説明できる。	
	予習復習の内容	子育て支援に関わる法や政策の名称を教科書を読み、確認する。	
16回	授業内容	子育て家庭支援の在り方	
	学習成果	子育て家庭支援の目的を理解し、家族の危機対応力に沿って、どのような支援が必要なのか説明できる。	
17回	予習復習の内容	事例を通して、危機対応能力について把握し、どのような支援が望ましいのかを全体でも考察しながら理解を深める。	
	授業内容	相談・援助者の役割と基本的態度	
18回	学習成果	相談・援助に臨むあたり大事にすべきことがわかり、基本的な態度や姿勢について説明できる。	
	予習復習の内容	相談・援助に臨むあたり大事にすべきことについて理解を深める。	
19回	授業内容	育児モデルとなる伝承の育児法 援助の実際	
	学習成果	あやし唄、わらべ歌を覚え、いくつかできるようになる。またどのような場所で育児の伝承に向け、どのような取り組みがなされているのか報告できる。	
20回	予習復習の内容	後半に子どもの発達に添ったわらべ歌を実践してみる。	
	授業内容	特別なニーズを持つ家族と援助	
21回	学習成果	特別なニーズへの対応の考え方を理解する。事例を通し考察し、これまで学んできた支援の仕組みや制度、支援者としての態度や姿勢などを確認しながら、現場に出た時、どのような援助ができるか、考え説明することができる。	
	予習復習の内容	事例についてどのような支援が必要なのかを全体でも考察し理解を深める。	
22回	授業内容	世界の子育て これまでの授業の振り返り	
	学習成果	世界の子育ての状況を知ることにより、わが国の状況を客観的に捉え、課題について考え報告することができる。	
23回	予習復習の内容	学習内容を振り返る。	

科目名	子ども家庭支援の心理学				担当者	飯 島 典 子 ・ 加 藤 和 子						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	飯島：授業の前後に質問を受け付ける。 加藤：授業の前後に質問を受け付ける。											
専門的 学習成果	①	乳幼児期から老年期を通じた生涯発達に関する知識と発達課題を理解し、説明することができる。										
	②	家族機能、親となること、親子関係の発達の意味を理解するとともに、現代的課題の視点をもつことができる。										
	③	家族における現代的課題を解決する支援について理解し、説明することができる。										
	④	家族の良好な構築を目指す支援のあり方を考察することができる。										
	⑤	子どもの精神保健に関する知識とその課題について理解し、説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会に対する問題意識を形成する。(専門的学習成果②③に関連)										
	(2)	現代社会の問題を解決するための知識と技能を獲得する。(専門的学習成果①②⑤に関連)										
	(3)	子育て家庭の課題からより良い未来を構築しようとする態度を身につける。(専門的学習成果①④に関連)										
授業概要	本講義では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題等について理解する。また、家族機能、親となること、親子関係の発達の意味を理解するとともに、家族における現代的課題を解決する支援について理解する。子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、子どもの精神保健とその課題について理解することを目的とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	30	子どもの精神保健に関する理解について「学習成果の評価」に示す内容の60%以上の得点を合格点とする								
		レポート										
		筆記試験	70	家族支援のニーズと支援のあり方に関する理解を確認するために学期の途中で筆記試験を行い評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果②③により評価を行う (2) は専門的学習成果①②⑤により評価を行う (3) は専門的学習成果①④により評価を行う											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	本郷一夫・神谷哲司	『シードブック 子ども家庭支援の心理学』				建帛社						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①保育士資格取得に必修。テキストを使用して授業を進めるためテキストの予習・復習を行い、分らない用語などは各自で調べる(予習：週2時間程度)。また、社会福祉、児童福祉、保育の心理学など他の教科との関連が高いことから、他教科テキストの確認を行うこと、および新聞を読み社会に関する知識を得ることを時間外学習とする(復習：週2時間程度)。 ②筆記試験については解説によるフィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	生涯発達①乳児期から学童期の発達(飯島)	
	学習成果	生涯発達の観点をもとに乳児期から学童期の発達課題と初期経験の重要性を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
2回	授業内容	生涯発達②思春期から青年期の発達(飯島)	
	学習成果	生涯発達の観点をもとに思春期から青年期の発達課題を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
3回	授業内容	生涯発達③成人期から老年期の発達(飯島)	
	学習成果	生涯発達の観点をもとに成人期から老年期の発達課題を説明できる。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
4回	授業内容	家族機能と家族発達(飯島)	
	学習成果	家族の構造と機能、家族の発達および家族支援の原理に関する知識を身につける。	
	予習復習の内容	新聞などを通じて社会問題について考える。	
5回	授業内容	子育ての世代間伝達と親発達(飯島)	
	学習成果	ライフサイクルの観点から親になる課題を考えることができる。	
	予習復習の内容	新聞などを通じて社会問題について考える。	
6回	授業内容	ライフコースとワーク・ライフ・バランス(加藤)	
	学習成果	子育ての社会状況の変化について考えることができる。	
	予習復習の内容	新聞などを通じて社会問題について考える。	
7回	授業内容	多様な子育て家庭への支援(加藤)	
	学習成果	支援ニーズと支援の在り方について理解している。	
	予習復習の内容	児童福祉、社会的養護、社会福祉に関する復習を事前にし関連づけ理解を深める。	
8回	授業内容	特別な配慮を必要とする家庭への支援(加藤)	
	学習成果	多様な保育サービスの在り方について理解している。	
	予習復習の内容	児童福祉、社会的養護、社会福祉に関する復習を事前にし関連づけ理解を深める。	
9回	授業内容	障害をもつ子どもの家族支援(加藤)	
	学習成果	障害をもつ子どもの親、家族が抱える課題と支援ニーズについて理解している。	
	予習復習の内容	発達障害の特徴について整理し、内容を関連づけて理解を深める。	
10回	授業内容	災害と子ども(加藤)	
	学習成果	災害時の子どもの精神的健康とその支援について理解する。	
	予習復習の内容	テキストの熟考と整理	
11回	授業内容	子どもの発達と精神保健(加藤)	
	学習成果	ライフサイクルにおける乳幼児期の精神保健の重要性について理解している。	
	予習復習の内容	子どもの精神発達に関する理論について整理し、内容を関連づけて理解を深める。	
12回	授業内容	子どもの精神保健と環境の影響(加藤)	
	学習成果	子どもの心の発達における生活・生育環境の重要性を理解している。	
	予習復習の内容	子どもを取り巻く現代社会の特徴について整理し、内容を関連づけて理解する。	
13回	授業内容	発達障害(加藤)	
	学習成果	発達障害における体験世界について理解し、支援について理解している。	
	予習復習の内容	発達障害における不安・緊張・言葉のおくれ・高い感覚性、衝動性について理解を深める。	
14回	授業内容	習癖や不安に関連した障害(加藤)	
	学習成果	精神的なストレスによる様々な障害群と症状、その支援について理解している。	
	予習復習の内容	資料をもとに障害群と症状を整理し、理解する。	
15回	授業内容	児童虐待と精神保健(加藤)	
	学習成果	児童虐待が与える脳や精神保健への影響について理解している。	
	予習復習の内容	児童虐待について整理し、精神発達に与える悪影響について理解を深める。	

科目名	子どもの理解と援助				担当者	ヤマモトマコト 山本 信 (実務家教員)						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。										
専門的 学習成果	①	子どもの生活・遊び、環境との関連から子どもを理解することの意義を説明できる。										
	②	発達および学びのアセスメントに関する原理を理解し、保育者の役割や基本的な態度について述べるができる。										
	③	アセスメント結果から、子どもの課題の背景を捉え、仮説を立てることができる。										
	④	子ども自身、クラス集団、環境、保育体制など多様な支援のあり方について理解し、具体的な支援の方法を挙げるができる。										
	⑤	子ども理解に基づいた保育目標、全体的な計画を立案する視点を身につけ、子どもの姿に合わせた計画の立案について討議できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子ども理解に必要な専門的知識・技能について理解し、他者と協働しながら子どもの理解・支援について深く考え、表現することができる。(専門的学習成果①④⑤)										
	(2)	子どもの育ちを支える者としての保育者の役割を理解し、幅広い教養とともに、現代社会に生きる子どもの課題や、自らの力を地域社会の中で活用する方法について考え、討議することができる。(専門的学習成果②③⑤)										
授業概要	子どもの生活および遊びを通じた学びの課程において支援を必要としている子どもの特徴と、その背景を理解するためのアセスメントについて学ぶ。また、これらを踏まえ、子どもの姿を想像しながら、子ども自身およびクラス集団への支援、環境と保育体制を通じた支援、保護者支援など、複数の観点から子どもの特徴に応じた総合的な支援のあり方について学ぶ。そして、子ども理解に基づいた保育目標、支援計画についてグループワークを通じて考察し、理解を深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	30	小テスト (3回) : 正答率に応じて評価を行う (各10点)								
		ワーク課題	50	各授業での演習・ワーク課題 (14回) : 授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う								
		グループワーク	20	グループワーク (3回) : テーマに基づいた発言や議論への参加姿勢や発言内容の評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	飯島典子・本郷一夫 編著		『シードブック 子どもの理解と援助』						建帛社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』(解説書含む)									
	厚生労働省		『保育所保育指針』(解説書含む)									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む)									
	本郷一夫・飯島典子 編著		『シードブック 保育の心理学』						建帛社			
	本郷一夫編著		『「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援：チェックリストを活用した保育の支援計画の立案』						北大路書房			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学修を必ず行うこと。 ＜事前学修(週30分程度)＞：テキスト・参考文献を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学修内容について予習を行うこと。また、自身の実習等の経験や学修内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 ＜事後学修(週30分程度)＞：毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学修内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 ＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。 ＜ワーク課題＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。 ＜グループワーク＞グループワークへの参加姿勢や発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	保育における子ども理解の意義		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	保育現場において「子どもを理解すること」について、その意義や専門性も含めて、具体的な言葉で説明することができる。		
	予習復習の内容	指針・要領を読み「保育・教育」とは何かについて理解しておくこと。これまでの子どもとのかかわりの中で、「子どもを理解すること」の意義と具体的な保育者の役割について自分の言葉で説明できるようにしておくこと。		
2回	授業内容	子どもの発達を理解する方法		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	発達検査・知能検査の種類と読み取れる情報について理解し、検査の結果と日常における子どもの様子との関連について説明することができる。		
	予習復習の内容	発達検査・知能検査は、何のために行うのか、自分の考えをまとめておくこと。発達検査・知能検査には具体的にどのようなものがあるか、自分で調べたものをリストアップしておくこと。		
3回	授業内容	子ども理解を深める保育記録および省察と評価		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	保育記録の種類や方法について理解し、記録を活用することの意義について、保育の計画・省察と水塊・改善の一連の流れを結びつけて説明することができる。実習日誌など、自身の記録を見直し・改善点を挙げるができる。		
	予習復習の内容	自身の実習日誌を読み、気づいたことや実習中に指導いただいたことをまとめておくこと。		
4回	授業内容	環境を通じた遊びと学び		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	遊びの複数の側面を理解し、遊びが主体的であるために必要な環境や保育者の姿勢について他者と議論し、自分言葉で具体的なイメージや事例とともに述べるができる。		
	予習復習の内容	「主体的・主体性」とは何か、自分の言葉で説明できるようまとめておくこと。「子どもが主体的に遊んでいる場面」を、具体的な場面や状況とともに挙げられるようにしておくこと。		
5回	授業内容	運動と身体感覚		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	手指の動作を中心に、協調運動の発達を認知・記憶や感覚と関連付けて説明することができる。日常生活や遊びの中の「不器用さ」を捉え、保育の工夫や多様な保育内容の展開について他者と議論することができる。		
	予習復習の内容	実習における子どもの姿や、自身の経験の中で「不器用さ」を感じたことのある場面をリストアップしておくこと。「不器用さ」への支援はどのようになされるべきか、自分の考えをまとめておくこと。		
6回	授業内容	言葉と文字		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	子どもの言語獲得について、認知発達との関連について理解を深め、子どものつまづきや保育の工夫を踏まえた言葉の発達の具体的な援助方法を考え、表現することができる。		
	予習復習の内容	「保育の心理学」の「言語の発達」を復習しておくこと。言葉の各発達段階において、言葉の発達を支える(他の発達領域も含めた)要因についてまとめておくこと。		
7回	授業内容	数と数量感覚		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う 小テスト① 第4回～第6回の学習内容についての理解を計る
	学習成果	数概念の理解の発達を理解し、子どもが日常経験を通じて数・数量感覚を身につけるための環境構成や保育の工夫・援助について、具体例を示しながら説明することができる。		
	予習復習の内容	幼児期の数概念の発達について「幼児と環境」の授業内容を振り返っておくこと。数概念の発達を促す遊びや活動について調べ、まとめておくこと。		
8回	授業内容	個性の育ち		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	子どもの気質、意欲、自己制御に関する発達の理解を深め、主体的な成長の過程とともに、つまづき経験の重要性も踏まえて、子ども一人一人の個性が豊かに育つための援助について説明することができる。		
	予習復習の内容	「個性」「気質」「性格」についての違いを理解するために、それぞれの言葉の定義について調べておくこと。その上で、「個性が豊かに育つ」とはどのようなことなのか、自分なりに説明できるようにしておくこと。		
9回	授業内容	仲間関係とクラス集団の育ち		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	子どもの肯定的な仲間関係の構築や、楽しみの共有、また、いざごの生じる理由について理解し、仲間との遊びを援助する際の工夫について、理論的に説明することができる。		
	予習復習の内容	自分の幼少期に行った、印象に残っている集団での遊びと、その遊びの何が楽しかったかについて書き出しておくこと。また、友達との「楽しみの共有」や「いざご」についても、自身の経験から説明できるようにしておくこと。		
10回	授業内容	事例検討①：多角的な視点によるアセスメントと支援		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う 小テスト② 第7回～第9回の学習内容についての理解を計る
	学習成果	一つの事例を、様々な発達領域の視点から多角的かつ理論的に捉え、子どもを理解するための視点・方法や具体的な保育・支援について、他者と議論することができる。		
	予習復習の内容	実習等において、自身が出会った「気になる」子について、子どもの姿や、自身の関わりとその意図について、他者に説明できるようにしておくこと。		
11回	授業内容	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	「気になる」子どもの背景を捉え、観察やチェックリストを使った「子どもを理解する方法」について理解を深め、複数の方法を用いることの重要性について、自分の言葉で説明することができる。		
	予習復習の内容	「特別な配慮を必要とする子ども」への具体的な支援・援助方法について、自分の考えをまとめるとともに、書籍やインターネットを用いて、調べておくこと。		
12回	授業内容	事例検討②：社会性発達チェックリストを用いたアセスメントと支援		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	具体的な事例において、「社会性発達チェックリスト」と「子どもの日常の姿」を照らし合わせながら、両者を結びつけ、「気になる」行動の背景について、自分なりの解釈を説明し、他者と議論することができる。		
	予習復習の内容	実習等において、「気になる」子どもに対して、自身が行った、または、保育者が行った具体的な関わりや支援を挙げ、その関わり・支援の意図を、自分なりの解釈でまとめておくこと。		
13回	授業内容	家庭との連携を通じた小友の理解と援助		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	家庭との連携について、具体的な連携の方法をふまえて、子どもの発達を援助していくプロセスについて説明することができる。さらに、多様な家庭環境についても理解を深めた上で、他者と議論することができる。		
	予習復習の内容	「子どもの家庭支援の心理学」「子育て支援」「子ども家庭支援論」の学習内容を理解した上で授業に望むこと。また、近年の子育て環境について、報道や書籍等を通して理解を深めておくこと。		
14回	授業内容	保育者間の連携を通じた発達援助		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う
	学習成果	園内研修会や保育カンファレンスなど、保育者同士の連携による発達援助の実践について、事例を通して具体的に説明することができる。		
	予習復習の内容	実習等において、保育者同士が行っていた「連携」について振り返っておくこと。また、保育現場で働く上で、今の自分の視点から、有効だと思う「連携」とその理由について書き出しておくこと。		
15回	授業内容	発達と学びの連続性と修学支援		授業内容を踏まえた演習・ワークシート提出により評価を行う 小テスト③ 1～15回の学習内容についての理解を計る
	学習成果	就学支援において、子どもを取り巻く多様な関連機関が関わっていることを理解した上で、子ども理解に基づいた協働・発達支援の進め方について説明することができる。		
	予習復習の内容	本講義のまとめとして、学修内容の振り返りを行い、子ども理解と発達支援において大切なことをまとめておくこと。		

科目名	保育内容指導法「人間関係」				担当者	キミ ジマ トモ コ子 君 島 智 子						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。										
専門的 学習成果	①	領域「人間関係」のねらい及び内容と全体構造を説明することができる。										
	②	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが発達の過程で経験し身につけていく内容と指導上の留意点を説明できる。										
	③	教材研究（情報機器及び教材の活用を含む）や環境の重要性を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。										
	④	模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。										
汎用的 学習成果	(1)	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、乳幼児の人との関わりが発達について保育者の果たす役割を自覚し子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、人と関わる力を育む専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③④に関連）										
授業概要	人間は人との関わりなしには存在し得ない。本講義では、領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの人と関わる力を養うために必要な経験と資質能力を育む指導上の留意点を理解する。また、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身につけ、模擬保育やロールプレイをもとに、保育を改善する視点を身につける。教員の精神保健福祉士としての精神保健センターでの実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	85	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		レポート	10	授業内容の理解についてレポートを課し（3回各1%）、内容を評価する。模擬保育やロールプレイ実施後に記入する振り返りシートの内容を評価する（7回各1%）。								
		他	5	模擬保育、ロールプレイ、グループワークへの取り組みを評価する（5回各1%）。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③④で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	無藤隆監修		『領域 人間関係』							萌文書林		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）									
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）									
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常生活の中で子どもを取り巻く環境や人間関係の育ちについて意識し、考えること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニツレポートの提出を促し、次の授業でフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」		レポート 400字 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」第3回授業終了後提出
	学習成果	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」のねらいや内容について理解し、つながりと意味について説明できる。		
	予習復習の内容	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する。領域「人間関係」ねらい、内容について説明できるようにしておく。		
2回	授業内容	幼児教育の構造を踏まえた領域「人間関係」の保育構想		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	幼児教育の目的と領域を理解し、他領域の関連性を踏まえて領域「人間関係」の特質と保育構想について説明できる。		
	予習復習の内容	幼児教育の目的と5領域の関連、領域「人間関係」の特質について説明できるようにしておく。		
3回	授業内容	事例検討①人間関係を育む保育実践の留意点（保護者、保育者との関わり）		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	事例検討を通して、人と関わる力を育む保護者、保育者の役割について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	愛着の形成について理解し、乳児期における保護者、保育者の役割について説明できるようにしておく。		
4回	授業内容	事例検討②人間関係を育む保育実践の留意点（自我の形成と保育者の関わり）		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	子どもの自己主張を支える保育者の関わりと、自立に向けた役割について説明できる。		
	予習復習の内容	自我の形成と自己主張について理解し、保育者の役割について説明できるようにしておく。		
5回	授業内容	ロールプレイ①人間関係を育む保育実践の留意点（仲間との関わり）		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	ロールプレイを通していざごにおける保育者の関わりと役割について理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	発達におけるいざごの意味を理解し、保育者の役割について説明できるようにしておく。		
6回	授業内容	ロールプレイ②人間関係を育む保育実践の留意点（園の決まりやルール）		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	集団における葛藤を通して、道徳性・規範性を育む保育者の役割について説明できる。		
	予習復習の内容	「道徳性・規範意識の芽生え」について説明できるようにしておく。		
7回	授業内容	模擬保育実施に向けた保育構想と指導案の理解		レポート 400字 「保育構想と指導案作成、保育実践と評価について」 第10回授業終了後提出
	学習成果	保育内容をもとに発達を踏まえた保育を構想する重要性と、指導案の構成を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	保育実践が指針・要領をもとにした保育構想、指導案作成、保育実践、検証で構成されていることを説明できるようにしておく。		
8回	授業内容	ポートフォリオや映像等を活用した評価方法の理解と指導上の留意点		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	ポートフォリオやビデオカンファレンスについて理解し、指導上の留意点を踏まえて評価に活用する方法について説明できる。		
	予習復習の内容	ポートフォリオやビデオカンファレンスを評価に活用する方法について説明できるようにしておく。		
9回	授業内容	模擬保育実施に向けた保育構想の計画（グループワーク）指導案の作成と情報機器の活用及び教材の研究		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	保育を構想し、指導案の作成、情報機器の活用及び教材研究を実践することができる。		
	予習復習の内容	劇遊び実践に向けて保育を構想し、指導案の作成、教材研究に取り組む。		
10回	授業内容	模擬保育実践：友達と関わり集団で遊びを楽しむ		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	保育内容（人間関係）の観点からみた劇あそびの意義を理解し、模擬保育を指導案に沿って実践できる。		
	予習復習の内容	保育内容（人間関係）の観点からみた劇あそびの意義を理解し、説明できるようにしておく。		
11回	授業内容	模擬保育実践の振り返り①（情報機器及び教材の活用方法や環境構成に関する課題の検討）		振り返りシートの記入
	学習成果	構想した保育実践を振り返り、教材の活用方法や環境構成に関する課題を見出す。		
	予習復習の内容	教材の活用方法や環境構成を理解し、課題を整理しておく。		
12回	授業内容	模擬保育実践の振り返り②（保育構想の再構築と指導案の作成）		レポート400字 「指導案の構成と指導上の留意点について」 第14回授業終了後提出
	学習成果	保育実践の振り返りを通して、人間関係を育む保育構想を再検討し指導案を作成できる。		
	予習復習の内容	保育実践の振り返りをもとに構想を再検討し、指導案を作成できるようにしておく。		
13回	授業内容	領域「人間関係」の特性をふまえた教材や情報機器の効果的な活用法		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	領域「人間関係」の特性を理解し、保育実践における効果的な教材や情報機器の活用につなげることができる。		
	予習復習の内容	領域「人間関係」の特性を理解する。効果的な教材や情報機器を知り、活用につなげることができるようにする。		
14回	授業内容	事例検討：特別な支援が必要な子どもへの保育実践		振り返りシートの記入 ワークへの参加態度
	学習成果	人との関わりが難しい子どもの事例を通して、生活や遊びにおける具体的な指導場面を想定し、実践につなげることができる。		
	予習復習の内容	発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定し実践で活用できるようにしておく。		
15回	授業内容	領域「人間関係」の現代的課題と小学校教育への接続		定期試験：筆記試験 15回の内容理解を評価する。配布資料をもとに内容を整理し、理解しておくこと。
	学習成果	現代社会の特徴と子どもの人間関係、保護者のストレスを理解し、幼保小接続の重要性を説明できる。		
	予習復習の内容	人間関係の発達における現代社会の課題を理解する。幼保小接続の重要性を説明できるようにしておく。		

科目名	保育内容指導法「言葉」				担当者	ヤマモト マコト (実務家教員)							
区分	必修	1	単位	授業回数	15	回	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。											
専門的 学習成果	①	領域「言葉」のねらいと内容を他の領域と関連づけながら説明することができる。											
	②	言葉とコミュニケーションおよび思考の発達過程と乳幼児期に必要な経験について理解し、保育構想に活用することができる。											
	③	生活や遊びを通じた乳幼児の育ちを援助するための技能および教材の活用方法について学び、他者と協働しながら実践的な指導案を作成できる。											
	④	保育の評価方法と改善（カリキュラムマネジメント）について理解した上で、保育の計画や指導案を作成できる。											
	⑤	領域「言葉」に関する現代的課題や保育実践の動向を踏まえ、保育の質の向上に必要な保育者の専門性について説明することができる。											
汎用的 学習成果	(1)	領域の指導に関する専門的知識・技能を修得し、生活や遊びの中で、様々な教材や、豊かな感性や想像力・表現力をもって、乳幼児の育ちを支えるための実践について考え、表現することができる。（専門的学習成果①②③④）											
	(2)	現代社会における子どもを取り巻く状況について理解し、地域社会の中で子どもに必要な経験について、他者と協働しながら議論し、主体的・積極的に学びを探索することができる。（専門的学習成果②④⑤）											
授業概要	乳幼児の言葉に対する感性と話す・聞く・伝える・考える力を育成する意義について理解する。また、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」の「ねらい」・「内容」・「内容の取り扱い」について、その背景となる発達の理解と現代的課題とともに学ぶ。さらに、領域「言葉」の指導方法と援助のあり方、カリキュラムマネジメントについて実践的に学び、領域の指導法について理解を深める。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		小テスト	20	小テスト（4回）：正答率に応じて評価を行う（各5点）									
		グループワーク	15	グループワーク（3回）：テーマに基づいた発言や議論への参加姿勢の評価を行う（各5点）									
		ワークシート	15	ワークシート（3回）：授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う（各5点）									
		模擬授業	10	模擬授業（1回）：テーマに基づいた発表内容（5点）およびプレゼンテーション（5点）の評価を行う。									
確認試験	40	これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテストを実施し、評価を行う。											
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・④・⑤にて評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
	秋田喜代美・野口隆子 編著		『保育内容 言葉』						光生館				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（解説書含む）										
	厚生労働省		『保育所保育指針』（解説書含む）										
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 ＜事前学習（週30分程度）＞：テキスト・参考資料を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、自身の実習等の経験や学習内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 ＜事後学習（週30分程度）＞：毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 ＜レポート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。レポート作成の際には、引用・参考文献は必ず記述するものとする。また、提出されたレポートに関して、必要に応じて、内容の理解についての確認を個別に行う場合もあるため、自分の言葉で確実に理解した上で記述すること。 ＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。 ＜グループワーク・模擬授業＞グループワークへの参加姿勢や模擬授業の発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。 ＜ワークシート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。												

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	乳幼児の言葉の発達と領域「言葉」、他の領域との関連	
	学習成果	「領域」という考え方を理解し、乳幼児音言葉の発達と5領域との関連について説明できる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」のねらいおよび内容について理解しておくこと。5領域と乳幼児の言葉の発達との関連についてまとめておくこと。	
2回	授業内容	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いおよび小学校教育との学びの連続性	
	学習成果	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについて理解し、乳幼児期の経験や学びが小学校教育へどのようにつながっていくかについて説明することができる。	
	予習復習の内容	領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについてまとめ、保育現場および小学校教育との具体的なつながりについて説明できるようにしておくこと。	
3回	授業内容	乳児期の言葉の発達	
	学習成果	乳児期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について具体的な事例を用いて説明することができる。	
	予習復習の内容	非言語的コミュニケーションも含め、乳児期の言葉の発達について理解しておくこと。指差しの持つ意味について理解し、二項関係から三項関係への移行と言葉の発達について説明できるようにしておくこと。	
4回	授業内容	幼児期の言葉の発達	
	学習成果	幼児期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について具体的な事例を用いて説明することができる。	
	予習復習の内容	仲間関係の中での言葉の育ちや、思考の道具としての言葉の機能について理解しておくこと。	
5回	授業内容	幼児期から児童期の言葉	
	学習成果	児童期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について、また、保・幼・こ・小の接続や、言葉に関する家庭との連携について説明することができる。	
	予習復習の内容	入園児、進級時、就学時等の接続期における言葉の役割や、言葉の発達を促す環境について理解しておくこと。	
6回	授業内容	保育者の専門性と言葉・保育環境と言葉	
	学習成果	子どもの言葉の発達を支える保育者を含めた環境の役割について、専門的な視点から説明することができる。	
	予習復習の内容	言葉の発達を支える保育者の専門性や環境構成について、具体的な事例を挙げながら自らの言葉で説明できるよう理解を深めておくこと	
7回	授業内容	遊びと生活のなかの言葉	
	学習成果	保育の様々な場面における言葉が、身体的・情緒的に子どもの中に刻み込まれていくものであることを理解した上で、乳幼児の言葉の獲得や発達について説明できる。	
	予習復習の内容	保育の様々な場面で子どもたちが使っている言葉について、自身の経験や実習を振り返りまとめておくこと。	
8回	授業内容	指導案・指導法の理解	
	学習成果	一日の保育の中に含まれている領域「言葉」に関するねらい・内容・内容の取扱いについて、具体的な場面を示しながら説明することができる。	
	予習復習の内容	配布した指導案の中で、領域「言葉」に関連する箇所を抜き出し、保育所保育所保育指針と照らし合わせて理解しておくこと。	
9回	授業内容	保育計画と評価（カリキュラムマネジメント）（情報機器の操作を含む）	
	学習成果	保育におけるカリキュラムマネジメントについて、自らの言葉で説明することができる。計画と評価における情報機器の有用性について説明することができる。	
	予習復習の内容	カリキュラムマネジメントについて調べ、理解しておくこと。保育現場におけるカリキュラムマネジメントの具体的な流れについて、実践を想定しながら説明できるようにすること。	
10回	授業内容	乳幼児の言葉を育む保育：教材研究	
	学習成果	子どもの興味・関心をもとに、子どもが主体的に活動に取り組むための教材や環境構成について他者と協働しながら計画することができる。	
	予習復習の内容	絵本等の児童文化財や遊びについて理解し、様々な教材や活動における、乳幼児の言葉の育ちについて理解しておくこと。	
11回	授業内容	乳幼児の言葉を育む保育の計画：指導案作成	
	学習成果	子どもの興味・関心をさらに広げ、深めるための活動や環境構成について理解し、具体的な活動としての指導案・活動計画案を作成することができる。	
	予習復習の内容	指導案の基本的な構成について確認し、様々な活動や場面が、乳幼児の言葉の育ちとどのように関連しているのかについて理解を深めておくこと。	
12回	授業内容	乳幼児の言葉を育む保育の実践：模擬授業	
	学習成果	作成した指導案について、実践を想定し、他者と協働しながら説明することができる。模擬授業（発表・他グループとの情報共有）を通して、自ら作成した指導案の改善点を挙げるることができる。	
	予習復習の内容	グループで作成した指導案の詳細について、実践を想定しながら理解を深めておくこと。発表を通して伝えられたこと、伝わりにくかったことをまとめ、指導案を改善すること。	
13回	授業内容	言葉の問題と援助	
	学習成果	領域「言葉」についての特別な配慮や支援について理解し、個別の指導計画の必要性について説明することができる。	
	予習復習の内容	生活環境や（障害を含む）特性の違いにより生じる、領域「言葉」に関連した支援について理解し、具体的な事例をふまえて説明できるようにしておくこと。	
14回	授業内容	保育の記録と改善	
	学習成果	保育における記録の意義や、記録の方法について理解し、実際の子どもの姿（映像）を観て記録を取ることができる。	
	予習復習の内容	保育において記録をする意義、記録をする上での留意事項について理解しておくこと。自分で取った記録や他者が取った記録を読み、適宜修正を行いながら、記録に必要な技術について理解を深めておくこと。	
15回	授業内容	保育・教育の現代的課題と領域「言葉」、振り返りとまとめ	
	学習成果	現代社会における保育・教育の課題を理解し、保育者として「言葉」の発達をどのように支えていくか、自分の考えも踏まえて説明することができる。	
	予習復習の内容	子どもを取り巻く現代社会の状況について、新聞等から情報を得ておくこと。本講義のまとめとして、学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に対して具体的な評価を実施すること。	
16回	授業内容	まとめ	
	学習成果	これまでの学習内容についての理解を計る	
	予習復習の内容	○1～15回の授業内容	

科目名	保育内容指導法「表現（造形）」				担当者	ササキ ユカ ヒロ 佐々木 貴 弘						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。											
専門的 学習成果	①	領域「表現」の意義と、保育者としての表現活動への指導法や関わり方を理解する。										
	②	表現活動を中心活動とした、教材研究、指導案作成、活動内容や場の設定ができる。										
	③	表現活動における学び、気づきを促す保育者の役割、指導援助を考える事ができる。										
	④	振り返りを通して、保育実践、地域実践への展開法、評価、発達理解について考えることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付けた上で、教材研究を通して指導法について考察する。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長に即した表現活動への保育実践力を高め、指導案作成を経て、模擬保育を行い保育実践力を高める。(専門的学習成果②③④に関連)										
	(3)	子どもや保護者、及び地域社会における造形表現的活動の意義を理解し、保育者としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	子どもの造形表現活動に関わる保育者としての基礎的な表現技術、基本姿勢を理解する。表現活動への「受容・共感・対応していくことの重要性」を踏まえ関わり方や指導法を身に付ける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	ワークシートを活用し進める。また、各自考案した製作活動、参考作品、提示の仕方、説明法も評価する。								
		教材研究・ 発表	30	保育教材研究への取り組み。それに伴う教材準備、製作手順の理解、試作試行の様子、指導上の留意点へ配慮、模擬保育の内容、後片付けまで評価する。								
	平常点	40	保育教材研究への取り組み、試行錯誤の様子、協働・意欲・態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	横英子		『保育をひらく造形表現』						萌文書林			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』									
	厚生労働省		『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』									
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習、準備物等は、その都度指示。基本的にワークシートを使用し進める。(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児あるいは福祉施設利用者を対象とした中心活動を考え教材研究に繋げる。教科書、スケッチブック、画材セットは毎回持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。おしぼり準備。長い髪はまとめる。教材費一人500円(半期分)集金。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②ワークシートを基に、翌週、グループ内にて、アイデアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	子どもの表現の特徴・特質を理解する。幼児の表現活動の分析(情報機器の活用)	ワークシートへの取り組み。子どもの造形表現について知る。造形活動についての構造的な理解。	
	学習成果	本授業の内容を理解し、描画の発達を踏まえ、概要について説明できる。		
予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。			
2回	授業内容	「表現と鑑賞(表す、観る)」。感じたこと考えたこと表す。表現活動の構造的な理解。		
	学習成果	表現活動について構造的な理解ができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、表現活動の構造的な理解をし、「表現と鑑賞」を踏まえた活動を考えることができる。			
3回	授業内容	「主題と題材」(身近なものを題材とし、伝えたいことを考え、伝える方法や手段を考える)		
	学習成果	造形あそびから主題表現への展開を通して、造形表現を通して「伝える、内容、手段」について考え理解を深める。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、表現活動における造形あそびから主題表現への展開を考えを深める。			
4回	授業内容	教材研究(対象年齢、各種素材、活動内容、児童文化財等の活用法、情報機器及び教材の活用、試作品製作など)		ワークシートへの取り組み。教材研究への姿勢。試作品、見本作品などの製作。図示、説明について考え、具体的に表現することができる。
	学習成果	具体的な題材、代表的な児童文化財の製作研究を行い活用法を考えることができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種保育教材、児童文化財の活用法への理解を深める。			
5回	授業内容	指導計画① 表現活動における保育の流れ(導入、中心活動、まとめ)活動の留意点		
	学習成果	保育現場における、製作活動の基本的な流れを理解する。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各種保育教材、児童文化財への理解を深める。			
6回	授業内容	指導計画② 造形活動の言語化(説明法)、見える化(参考作品、画像、工程図、実演)		
	学習成果	製作活動における、説明法、参考作品提示法を検討し、決定することができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、伝えることを考え、視覚教材を検討し選出する。			
7回	授業内容	指導案立案① 題材の選定。対象年齢の確定。役割分担、計画(グループワーク)		
	学習成果	グループ学習の中で、題材、対象年齢、役割等を決定し指導計画を行うことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、題材を踏まえ材料準備や、略案等を考える。			
8回	授業内容	指導案立案② 内容練り上げ、流れ確認(グループワーク)		
	学習成果	題材、略案等を踏まえ、集約し、内容を練り上げ指導案に向けて一本化できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、教材研究、指導案作成を行う。			
9回	授業内容	教材準備(人数と個数、活動形態、材料用具確認)(グループワーク)	指導案が立案できる。指導計画に基づき、保育を展開することができる。他者の保育を見ることで、学び合いを行うことができる。	
	学習成果	グループ学習の中で、協働して、模擬保育に向けて準備物等の確認をする。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、協働して、模擬保育に必要な材料準備、また、指導案作成を行う。			
10回	授業内容	模擬保育 実践(グループワーク)		
	学習成果	グループ内で、模擬保育後の所感を確認し振り返りを行うことができる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、模擬保育について、自分の役割を中心に省察する。			
11回	授業内容	模擬保育振り返り① 情報機器を活用した分析と省察。「修正版指導案」作成(グループワーク)		
	学習成果	グループ内で、動画等で模擬保育の課題を再確認し、改善点を修正できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、改善点を基に、修正版指導案の作成に向かう。			
12回	授業内容	模擬保育振り返り② 「対象年齢別指導案(3歳未満、以上児)」作成(グループワーク)		
	学習成果	グループ内外で行われた模擬保育を基に、対象年齢別指導案を作成できる。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、対象年齢、発達段階を踏まえ、事前準備、材料加工などを再考する。			
13回	授業内容	実習に向けて(活動形態、用具・設備、掲示、展示、発表法、事前打ち合わせ確認事項等)		実習に向けた準備、打ち合わせ内容などを再確認し、見直しを持って活動することができる。作品活用、展示、管理法などを考えることができる。共同製作に関する事例から、学内で習得した技法を応用し、活動を展開することができる。
	学習成果	学外実習に向けて、造形活動に関して、指導計画、作品の扱い、打ち合わせ事項などを再確認する。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、各々の実習に向けた事前準備に繋げる。			
14回	授業内容	個々の製作から共同製作に向けた活動例(作品活用、壁面、掲示展示発表例)		
	学習成果	中心活動で行った個々の活動を共同製作に繋げる事例などを知る。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、改善点を基に、修正版指導案の作成に向かう。			
15回	授業内容	まとめ。感性、表現力、創造性について考察。家庭や地域連携、幼小接続に向けた活動。	総括(まとめのレポート)提出。	
	学習成果	造形活動の意義、活動を通して高まる感性などを再確認し総括する。		
予習復習の内容	学習内容を振り返り、造形表現指導法を通し体験的に学んだ事を基に、自身の保育現場での活動に繋げていく。			

科目名	子どもの健康と安全				担当者	トウカイリン 東海林 ハツ エ 枝						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業内容に関する質問等は、授業前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、説明することができる。										
	②	保育における健康及び安全の管理について具体的に理解し、説明することができる。										
	③	子どもの体調不良等に対して適切に対応するための方法について説明できる。										
	④	保育における感染症対策について具体的に理解し、実践することができる。										
	⑤	健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解し、適切な保健活動ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる健康及び安全管理を踏まえた保育環境や援助について理解し、基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの健康保持と体調不良に対する対応などの保育実践力を確実にする。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	子どもの健康と安全の管理に関わる、職員間、他組織、地域等と協働する力を身につける。(専門的学習成果⑤に関連)										
授業概要	子どもの心身の成長発達を踏まえ、健やかな子どもの成長を支え安全な環境を提供するための保健活動のあり方と、安全管理について学ぶ。また子どもの疾病や障害のある子どもへの適切な対応についても具体的に学ぶ。感染症対策や救急処置について、保育者として必要な対応を習得する。さらに施設での事故防止及び健康安全管理への取り組み等の学習を通して、地域保健活動のあり方を理解し、他組織、地域等と協働する力を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	①5%、②10%、③10%、④10% 学習成果の達成度を評価する。								
		筆記試験	60	各30%を2回実施。60%以上の得点を合格点とする。								
		平常点	10	授業態度、グループワークへの参加状況の評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	大西文子		『子どもの健康と安全』						中山書店			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』						フレーベル館			
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』						フレーベル館			
内閣府・文科省・厚生労働省		『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』										フレーベル館
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。授業内容理解のため、事前学習として、教科書や事前に指示した資料をよく読んで理解しておくこと。特に授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習：週0.5時間程)。また、事後学習は、単元ごとにレポート提出及び小テストを実施しその内容を評価の対象とするので、復習をしっかりすること。授業で学んだことを「子どもの保健Ⅰ」、「乳児保育」のテキスト内容と照らし合わせ再確認の作業を行うこと(復習：週0.5時間程度)。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に解説を行う。 授業は、前期は実習中を除く8回、後期7回実施する。参考書は毎回持参すること。グループ活動では、各自積極的に授業に臨むこと。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	保健活動の内容と保健計画及び保健活動の記録と評価を理解する。		レポート提出① 課題 「保育における保健活動の重要性を理解し、日常の健康観察のあり方を考察する」
	学習成果	年間保健活動の実際と、保健活動の重要性を理解する。		
	予習復習の内容	保育における保健活動の重要性を理解する。保育所保育指針、及び幼稚園教育要領等の関連部分を精読する。		
2回	授業内容	保育における健康観察。グループダイアログを実施し、実習施設で実施してきた自身の観察を見直し、実践力を高める。		
	学習成果	保健的観点を踏まえた保育環境の整備と援助ができるようになり、健康観察実践力を高めることができる。		
	予習復習の内容	健康観察の実際を復習し、まとめてくる。実際に行ってきた健康観察を見直し、常に子どもの状態を把握できるようにする。		
3回	授業内容	健康診断について理解し、身体発育の実際を学ぶ。子どもの生活習慣と心身の健康について学ぶ。		レポート提出② 課題 「身体発育曲線を描き考察する」
	学習成果	子どもの成長発達を踏まえた生活習慣を理解し、適切な生活習慣の形成と発育測定ができるようになる。		
	予習復習の内容	1日の生活リズムと生活習慣のあり方を理解する。保育所保育指針・幼稚園教育要領等から保育者として大切な事項を整理し理解する。		
4回	授業内容	保育における健康及び安全の管理①保育施設での死亡事故をあげ、グループワークする。		レポート提出③ 課題 「保育施設での死亡事例をあげ、子どもの生命を守る保育者としてのあり方を考察する。」
	学習成果	保育者の子どもの生命維持に対する使命を確認する。		
	予習復習の内容	「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(28年3月)を学ぶ。		
5回	授業内容	保育における健康及び安全の管理②危機管理についてグループワークする。		
	学習成果	危機管理、災害対策について具体的に理解する。		
	予習復習の内容	実習園の危機管理の実際についてまとめてくる。		
6回	授業内容	体調不良に対する対応①アレルギー エピペンの使い方		筆記試験① 8回後半で実施する。 ・アレルギー ・症状に対するケア
	学習成果	アレルギー疾患に対する適切なケアを理解し実践することができる。		
	予習復習の内容	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(23年3月)の理解		
7回	授業内容	体調不良に対する対応②発熱 腹痛 下痢等		
	学習成果	症状に対する適切なケアを理解し対応することができる。		
	予習復習の内容	実習で経験した症例について、ケアの実際を省察する。		
8回	授業内容	体調不良に対する対応③痙攣 嘔吐等		
	学習成果	症状に対する適切なケアを理解し対応することができる。		
	予習復習の内容	実習で経験した症例について、ケアの実際を省察する。		
9回	授業内容	保育における健康及び安全の管理③実習中のヒヤリハット事例についてグループワークする。		レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	衛生管理、事故防止の実際について具体的に理解し実践できる。		
	予習復習の内容	実習中のヒヤリハット事例をまとめる。「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(28年3月)を学ぶ。		
10回	授業内容	救急処置の実際 VTR「子どもの保健・実習」視聴。子どもの救急蘇生法を学ぶ。		筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	子どもの救急蘇生法を理解し、対応することができる。		
	予習復習の内容	子どもと成人の方法の違いを整理しておく。また身近なところにあるAEDの設置場所を確認しておく。		
11回	授業内容	子どもの事故と応急処置①応急手当(打撲・傷・鼻出血等)		
	学習成果	応急処置の実際を理解し、対応することができる。		
	予習復習の内容	正しい応急手当の方法を整理しておく。		
12回	授業内容	子どもの事故と応急処置②応急手当と包帯・三角巾の使い方		
	学習成果	応急処置の実際を理解し包帯・三角巾を使うことができる。		
	予習復習の内容	正しい応急手当の方法を整理しておく。		
13回	授業内容	感染症の予防と対策①衛生管理		
	学習成果	施設内外の衛生管理の実際を理解し、実践できるようになる。		
	予習復習の内容	「保育所における感染症対策ガイドライン」(30年3月)について復習する。		
14回	授業内容	感染症の予防と対策②集団発生の予防と対応		
	学習成果	集団発生の予防と発生時の対応が確実にできるようになる。		
	予習復習の内容	「保育所における感染症対策ガイドライン」(30年3月)を理解し、保育の場で行う感染予防が日常的に実践できるようにする。		
15回	授業内容	健康及び安全の管理の実施体制 職員間・専門機関等との連携		
	学習成果	個別的配慮の必要な子どもへの対応を地域保健の観点から支援できるようになる。		
	予習復習の内容	保育所保育指針第4章を予習復習する。		

科目名	社会的養護Ⅱ				担当者	川上 芳夫						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		メールで受け付ける アドレス e96w99@bma.biglobe.ne.jp										
専門的 学習成果	①	社会的養護について、定義、具体的内容、現状、課題、これからのあり方について説明できる。										
	②	施設養護、里親制度の特性および実際について理解し、説明することができる。										
	③	社会的養護における子どもの現状を理解し、社会的養護のもとで暮らす子どもに対する適切な対応を説明できる。										
	④	社会的養護に関わる専門的技術の内容や方法、ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用を説明できる。										
	⑤	事例検討において、課題と支援方法等について端的に意見を述べるができる。										
	⑥	児童福祉施設における保育士の資質や倫理について述べるができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑥に関連)										
	(2)	社会的養護の今日的課題やこれからのあり方を理解し、保育士として、児童福祉施設等の保育実践に生かすことができる。(専門的学習成果①②③⑤⑥に関連)										
	(3)	保育者に必要とされる子どもの発達、社会的養護児童の特徴を理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	社会的養護とは何か、要保護児童の実態、家庭養護と施設養護の違い、社会的養護の課題とこれからのあり方等について学ぶ。また、保育士として必要な愛着理論、子どもの発達、社会的養護児童の特徴、児童福祉施設に入所している児童の特徴についても学び、保育士として保育の実践に生かせるようにする。さらに、家族支援や児童福祉施設、教育機関などとの連携に重要な社会的援助技術の方法、保育士が身につけるべき倫理や自らのメンタルヘルスの方法についても学び、保育士が燃え尽きないように自己コントロールの方法についても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	全15回分の講義内容について筆記試験を行い、評価する。								
		平常点	50	授業の態度、関心、意欲を評価するとともに、原則として毎回提出する課題への取組状況、提出課題への取組を評価する。								
汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑥で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②③⑤⑥で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	小木曾宏・宮本秀樹・鈴木崇之		『よくわかる社会的養護Ⅱ』				ミネルヴァ書房					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを準備のうえ授業を受けること。授業は、テキスト、配付する参考資料等により進める。事前学習として、授業内容理解のため、テキストを読み予習をしてもらうこと。 ②小テスト及び提出課題に対するフィードバックは、実施した次の授業で解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	社会的養護の基本的枠組み	報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護の基本的枠組みを理解し、社会的養護とは何か説明できる。	
2回	予習復習の内容	教科書 P2～17をよく読んでおく。	
	授業内容	日本の社会的養護の課題	
3回	学習成果	日本の社会的養護の課題と今後の方向性について説明できる。	
	予習復習の内容	今日の社会的養護の体系、社会的養護における子どもたちの現状について理解する。	
4回	授業内容	アセスメントと個別支援計画作成	報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	自立支援計画の実際について理解し、説明できる。	
5回	予習復習の内容	教科書 P136～151をよく読んでおく。	
	授業内容	記録および自己評価、第三者評価	
6回	学習成果	記録の書き方、スーパービジョンの意義についてを理解し、報告できる。	
	予習復習の内容	教科書 P152～161をよく読んでおく。	
7回	授業内容	保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用	報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護における専門職としての保育士の役割について説明できる。	
8回	予習復習の内容	教科書 P164～177をよく読んでおく。	
	授業内容	日常生活支援	
9回	学習成果	社会的養護における日常生活支援の実際について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P40～61をよく読んでおく。	
10回	授業内容	治療的支援、自立支援	報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	社会的養護における治療的支援について理解し、自立支援の基本について説明できる。	
11回	予習復習の内容	教科書 P62～91をよく読んでおく。	
	授業内容	社会的養護における家庭支援	
12回	学習成果	社会的養護における家庭支援の実際について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P196～205をよく読んでおく。	
13回	授業内容	施設養護の特性及び実際 1	報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	一時保護所、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設の役割を説明できる。	
14回	予習復習の内容	教科書 P94～113をよく読んでおく。	
	授業内容	施設養護の特性及び実際 2	
15回	学習成果	母子生活支援施設、児童心理治療施設の役割を説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P94～113をよく読んでおく。	
16回	授業内容	施設養護の特性及び実際 3	報告課題を与え、提出させる。
	学習成果	障害児者の施設援助や地域生活援助を学び、ノーマライゼーションを説明できる。	
17回	予習復習の内容	教科書 P94～113をよく読んでおく。	
	授業内容	里親制度の特性及び実際	
18回	学習成果	里親制度の現状と課題について説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P114～133をよく読んでおく。	
19回	授業内容	養子縁組とファミリーホーム	○定期試験時に筆記試験を実施する。
	学習成果	ファミリーホームの現状と課題について理解し、説明できる。	
20回	予習復習の内容	教科書 P114～133をよく読んでおく。	
	授業内容	ソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用	
21回	学習成果	ソーシャルワークに関わる基礎知識を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	教科書 P178～193をよく読んでおく。	
22回	授業内容	社会的養護の課題と展望	○定期試験時に筆記試験を実施する。
	学習成果	社会的養護の諸課題を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	教科書 P206～231をよく読んでおく。		

科目名	子育て支援				担当者	加藤和子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に質問を受け付ける。										
専門的 学習成果	①	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、説明できる。										
	②	保育相談支援の基本となる「子ども・子育て支援新制度」や地域の社会資源の活用や関係機関等の連携・協力について説明できる。										
	③	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践につなげることができる。										
	④	障害を持つ子どもの保護者や、経済問題を抱える保護者、孤立する保護者など、支援の対象となる保護者を理解し、実践でいかすことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	子育てをめぐる環境の厳しさを理解し、保育士の行う子育て支援における社会的役割を自覚して保護者の理解や支援ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子育て支援に必要なとされる専門的知識と基礎的な技法を実際の展開をもとに習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③に関連）										
	(3)	保育所等及び地域における子育て支援の実態を理解し、保育士として子育て支援の役割を探究し、他者と協働して地域社会でいかすことができる。（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要	子育て支援は、子どもの豊かな育ちを守り、実現するために欠かすことのできない保育士の専門性を背景とした実践活動である。子育て支援という対人援助を中心とした技術においては、その前提として保護者の子育てを通じた自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、実践に向けた理解を促進することを目標とし、事例を通してその概要を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		小テスト	20	各10%を2回実施。60%以上の得点を合格点とする。								
		他	20	ワークへの取り組みを評価する。各回5%を4回実施。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1)は専門的学習成果①②で評価する。 (2)は専門的学習成果③で評価する。 (3)は専門的学習成果②③④で評価する。											
テキスト 等	著者・編者名		書名							出版社名		
	小田豊監修		『日常の保育を基盤とした子育て支援』							萌文書林		
参考書 参考文献	著者・編者名		書名							出版社名		
	大日向雅美		『子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本』							講談社		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常生活の中で新聞・テレビなどから積極的に子育てに関する情報を得ること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニツレポの提出を促し、次の授業で全体に向けてフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	子育て支援における保育士の専門性と専門職の倫理	小テスト（第5回授業後半で実施する） ・現代社会における子育て環境 ・保育士の行う子育て支援の専門性 ・子育て支援における保育士の役割 ・ソーシャルサポート ・保育相談支援における相談技術
	学習成果	家族や家庭の持つ機能、子育てについて生涯発達の視点から理解する。専門職の倫理について説明できる。	
予習復習の内容	生涯発達の視点から子育て支援について理解する。守秘義務と専門職倫理について説明できるようにしておく。		
2回	授業内容	「子ども・子育て支援新制度」と子育て支援	
	学習成果	現代社会における子育て環境について理解し、子育て支援の意義について説明できる。	
予習復習の内容	「子ども・子育て支援新制度」について説明できるようにしておく。		
3回	授業内容	保育士の行う子育て支援の意義と役割	
	学習成果	現代社会における保育ニーズの多様化と保育士の行う保育相談支援の必要性を説明できる。	
予習復習の内容	子育てが困難とされる現代社会の背景を理解し、保育士の役割を説明できるようにする。		
4回	授業内容	ソーシャルサポートとしての保育士による子育て支援	
	学習成果	家族の発達、ひとり親家庭、ファミリーサポート、次世代育成の必要性について説明できる。	
予習復習の内容	家族の形態や価値観の多様化について理解し、ファミリーサポートについて説明できるようにしておく。		
5回	授業内容	保育士の行う子育て支援：相談技術	
	学習成果	ケースワークの展開、記録の手法、評価について説明できる。	
予習復習の内容	ケースワークのプロセスと記録の手法について説明できるようにしておく。		
6回	授業内容	保育士の行う子育て支援：職員間の連携・協働	
	学習成果	子育て支援における職員間の連携・協働について理解し、重要性和留意点について説明できる。	
予習復習の内容	カンファレンスの内容と重要性について説明できるようにしておく。		
7回	授業内容	地域資源の活用と専門機関との連携	
	学習成果	専門機関の種類や地域資源について理解し、連携の重要性和留意点について説明できる。	
予習復習の内容	専門機関の種類と職種について説明できるようにしておく。		
8回	授業内容	保育所における支援	
	学習成果	保育所における保護者支援の留意点・支援計画・評価・カンファレンスについて説明できる。	
予習復習の内容	支援計画と評価、カンファレンスについて理解し、説明できるようにしておく。		
9回	授業内容	地域子育て支援事業における支援	
	学習成果	地域子育て支援事業における支援の留意点・計画・評価について説明できる。	
予習復習の内容	地域の子育て支援における留意点やプログラムについて説明できるようにしておく。		
10回	授業内容	児童養護施設における支援	
	学習成果	児童養護施設における保護者支援の留意点・支援計画・評価・カンファレンスについて説明できる。	
予習復習の内容	支援計画と評価、カンファレンスについて理解し、説明できるようにしておく。		
11回	授業内容	事例検討：保育所	
	学習成果	保育所の事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。	
予習復習の内容	事例を通して保育所における支援について理解し、説明できるようにしておく。		
12回	授業内容	事例検討：地域子育て支援センター	
	学習成果	地域子育て支援センターの事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。	
予習復習の内容	事例を通して地域子育て支援センターにおける支援について理解し、説明できるようにしておく。		
13回	授業内容	事例検討：障害児施設等	
	学習成果	児童発達支援センターの事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。	
予習復習の内容	事例を通して児童発達支援センターにおける支援について理解し、説明できるようにしておく。		
14回	授業内容	事例検討：児童養護施設	
	学習成果	児童養護施設の実例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。	
予習復習の内容	事例を通して児童養護施設における支援について理解し、説明できるようにしておく。		
15回	授業内容	子育て支援における課題と保育士の果たす役割	
	学習成果	子育ての社会化の必要性に関する理解を踏まえ、子育て支援における課題と保育士の役割について自らの考えを説明できる。	
予習復習の内容	子育ての社会化が必要とされている背景を理解する。課題と保育士の役割について説明できるようにしておく。		

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				担当者	佐々木貴弘・中島恵・岩淵 稔子						
区分	選択	2	単位	授業回数	おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	90	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		短大のメールアドレス、および巡回訪問での直接のやりとりで実施する。										
専門的 学習成果	①	保育所の役割や機能を理解し、記述することができる。										
	②	観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、考察できる。										
	③	既習の学習を踏まえ、子ども及び保護者への支援について総合的に説明できる。										
	④	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、計画の部分的な立案を実践する。										
	⑤	保育士の業務内容や職業倫理について理解し、行動する。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる知識や技術を習得し、自覚をしながら子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、主体的、積極的行動実践ができる。（専門的学習成果②③⑤）										
	(3)	自己の課題を見出し、省察し、反省を踏まえて学び続けることができる。（専門的学習成果④）										
授業概要	保育所実習を通して、保育所の役割と機能について学び既習の学習を踏まえながら、さらに子ども理解を深める。保育の実際に接し、子どもとの関わりを通して乳幼児の発達や健康・安全への配慮、環境等の工夫と保育所等における保育の意義についての理解を深める。また、保育課程と指導計画、記録について理解し保育の実際を学ぶ。実践を通して、保育士間の連携、保護者支援の在り方、地域との連携、保育士の役割と倫理について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		レポート	10	事前事後指導における、各種提出物（事前学習、提出書類、自己評価、報告書など）にて総合的に評価する。								
		実習評価	80	保育所実習Ⅰにおける、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。								
	実習日誌等総合評価	10	事前事後指導などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③⑤により評価を行う。 （3）は専門的学習成果④により評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『教育・保育実習ガイドブック』				聖和学園短期大学保育学科						
		『保育実習の手引き』				宮城県保育実習連絡協議会編						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』				フレーベル館						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習として、保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、ガイダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを発展させるようにすること。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	事前オリエンテーション	
	学習成果	保育所の概要の理解と、実習中の諸注意を把握し日誌に記述できる。	
2回	予習復習の内容	保育所の概要を調べる。	
	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）0歳児	
3回	学習成果	0歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
	予習復習の内容	0歳児の特徴の理解	
4回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）1歳児	
	学習成果	1歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
5回	予習復習の内容	1歳児の特徴の理解	
	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）2歳児	
6回	学習成果	2歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
	予習復習の内容	2歳児の特徴の理解	
7回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）3歳児	
	学習成果	3歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
8回	予習復習の内容	3歳児の特徴の理解	
	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）4歳児	
9回	学習成果	4歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
	予習復習の内容	4歳児の特徴の理解	
10回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）5歳児	
	学習成果	5歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載ができる。	
11回	予習復習の内容	5歳児の特徴の理解	
	授業内容	クラス理解	
12回	学習成果	一人ひとりの子どもが集まった集団としてのクラスについて理解する。	
	予習復習の内容	保育者のクラス運営の観察	
13回	授業内容	子どもへのかかわりの理解（援助の実際）	
	学習成果	配属クラスでの実際の子どもとの関りと考察を日誌に記載する。	
14回	予習復習の内容	保育士の動き（関わり）の観察や質問	
	授業内容	指導計画についての学習	
15回	学習成果	全体の計画内容について理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	保育課程の理解	
16回	授業内容	指導計画の部分的な立案	
	学習成果	生活の一部（絵本の読み聞かせなど）の指導案立案ができる。	
17回	予習復習の内容	保育課程の理解	
	授業内容	子どもへのかかわりの実際	
18回	学習成果	日誌での省察・振り返り、ねらいに基づく記述ができる。	
	予習復習の内容	ねらいの理解	
19回	授業内容	保育士の動き（関わり）を見据えた、実習生としての働き	
	学習成果	状況に応じた仕事をみつけて動くことができる。	
20回	予習復習の内容	保育士の職務内容の理解	
	授業内容	保育の環境の整備	
21回	学習成果	保育に必要な素材等の整備ができる。	
	予習復習の内容	食事、排泄、睡眠、清潔に必要な環境整備の理解	
22回	授業内容	保育所実習Ⅰの振り返り	
	学習成果	自己の課題を明確にした振り返りを日誌に記述し、反省会で自分の言葉で述べるができる。	
23回	予習復習の内容	自己の実習の課題の理解	

科目名	保育実習Ⅰ（施設）				担当者	サトウ 佐藤 マリコ 万利子 ・ ヤマモト マコト 山本 信 ・ コンノ コノノ 金野 マイ 麻衣						
区分	選択	2	単位	授業回数	おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	通年
授業時間数	90 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	短大のメールアドレス、および巡回訪問での直接のやりとりで実施する。											
専門的 学習成果	①	福祉施設の役割や機能を理解し、記述することができる。										
	②	観察や子どもと、利用者の関わりを通して子ども、利用者への理解を深め、考察できる。										
	③	既習の学習を踏まえ、子ども及び利用者への支援について総合的に理解する。										
	④	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、計画の部分的な立案を実践する。										
	⑤	施設保育士の業務内容や職業倫理について理解し、行動する。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる知識や技術を習得し、自覚をしながら子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、主体的、積極的行動実践ができる。（専門的学習成果②③⑤）										
	(3)	自己の課題を見出し、省察し、反省を踏まえて学び続けることができる。（専門的学習成果④）										
授業概要	施設実習を通して、福祉施設の役割と機能について学び既習の学習を踏まえながら、さらに子ども、利用者理解を深める。支援の実際に関し、子ども、利用者との関わりを通して障害の理解や健康・安全への配慮、環境等の工夫と福祉施設における保育士の役割について理解を深める。また、支援と指導計画、記録について理解し施設保育士の実際を学ぶ。実践を通して、職員間の連携、保護者支援の在り方、地域との連携、保育士の倫理について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		レポート	10	事前事後指導における、各種提出物（事前学習、提出書類、自己評価、報告書など）にて総合的に評価する。								
		実習評価	80	実習における、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。								
	実習日誌等総合評価	10	事前事後指導などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③⑤により評価を行う。 （3）は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『教育・保育実習ガイドブック』				聖和学園短期大学保育学科						
		『保育実習の手引き』				宮城県保育実習連絡協議会編						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』				フレーベル館						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習として、『保育所保育指針』『保育実習の手引き』の内容をよく理解しておくこと。また、ガイダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを発展させるようにすること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	観察実習と利用者理解	1クール（1,2日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○利用者理解
	学習成果	課題に基づき、子ども、利用者の姿を観察し利用者理解につなげることができる。	
2回	予習復習の内容	課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。	2クール（3～5日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成
	授業内容	参加実習および指導案の作成	
3回	学習成果	参加実習を行う中で、実習担当者と討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。また、実施後の課題を具体的に挙げ、日々の保育と関連づけながら以降の実習に参加できる。	3クール（6～9日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施 ○保育の改善 教員による実習訪問指導
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。	
4回	授業内容	部分実習を通じた指導案の実践および自らの保育の改善	4クール（10日目） 実習先からの評価 ○実習全体を通じた評価 ○保育の改善
	学習成果	子ども、利用者との関わりにおいて改善の視点を持ち、計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。	
5回	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見通しを持って計画的に学びを整理しておくこと。	5回
	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善	
6回	学習成果	実習全体を通じた自らの学習課題について具体的に挙げることができるとともに、他者と共有・討議することができる。	6回
	予習復習の内容	実習全体を通して「できたこと・できなかったこと」についてまとめておくこと。また、それらを他者と共有できるように、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。	
7回	授業内容		7回
	学習成果		
8回	予習復習の内容		8回
	授業内容		
9回	学習成果		9回
	予習復習の内容		
10回	授業内容		10回
	学習成果		
11回	予習復習の内容		11回
	授業内容		
12回	学習成果		12回
	予習復習の内容		
13回	授業内容		13回
	学習成果		
14回	予習復習の内容		14回
	授業内容		
15回	学習成果		15回
	予習復習の内容		

科目名	保育実習指導ⅠB(2年)				担当者	佐藤 万利子 ・ 山本 信 ・ 金野 麻衣						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に受け付ける。										
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解し、説明できる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできる。										
	③	実習施設における人権と、守秘義務等について理解し、実践できる。										
	④	観察、記録の方法や内容について具体的に理解し、実践につなげることができる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、新たな課題や学習目標を明確にし、実践につなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能の習得を踏まえ、保育実習の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にして実践につなげることができる。(専門的学習成果①②④に関連)										
	(2)	人権と守秘義務等の専門職倫理について理解し、保育者の社会的役割を自覚して支援につなげることができる。(学習成果③に関連)										
	(3)	実践を振り返り自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(学習成果⑤に関連)										
授業概要	実習の意義や目的を明確にするとともに、保育実習を行う上で必要な知識、観察や記録の方法および姿勢を獲得する。また、保育実習へ向けた目的意識と意欲を高める。観察実習・見学を振り返ることを通して、保育実習へ向けた授業などを通じて学びを深め、課題を明確にする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	事前事後指導における、各種提出物(事前学習課題、実習課題、自己評価、レポート等)で総合的に評価する。								
		実習評価	30	実習(保育所・施設実習)における、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。								
	平常点	40	事前事後指導、事前事後学習への取り組みなどを総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1)は専門的学習成果①②④で評価する。 (2)は専門的学習成果③で評価する。 (3)は専門的学習成果⑤で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	聖和学園短期大学保育学科		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会編		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	厚生労働省		『保育所保育指針』(平成29年3月告示)									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)									
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、関係する文献を調べるなどして、保育所保育、障害児保育、子育て支援について理解を深める事。保育実習Ⅰ(施設)については、実習施設の法的根拠、機能、役割、子ども、利用者について理解し、実習課題と目標を明確にできるようにしておく。(予習:週2時間程度)。 ②実習後は学習内容を整理し、疑問点を文献資料等で調べ理解する。また、自己評価を通して新たな課題、学習目標を明確にしておく(復習:週2時間程度)。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習・保育実習指導について(復習)	・事前指導における、各種提出物で(事前学習課題、実習課題、レポート等)評価する。 ・事前指導、事前学習への取り組みなどで総合的に評価する。
	学習成果	保育士資格取得に係る保育実習と保育実習指導の内容(実習日数、科目単位数)を理解し、全体像を説明できる。	
	予習復習の内容	指定保育士養成施設指定基準を読み、理解しておく。	
2回	授業内容	保育実習Ⅰ(保育所実習)・保育実習Ⅰ(施設実習)の意義と目的	
	学習成果	保育実習Ⅰ(保育所実習)・保育実習Ⅰ(施設実習)の意義と目的を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅰ(保育所実習)・(施設実習)の意義と実習の流れ、目的、概要を理解しておく。	
	3回	授業内容	
学習成果		実習生としての心構え、マナー、服装、言葉遣い、体調管理、お礼状の書き方等について理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	実習において基本となる社会人としての心構え、マナー等を調べて日常生活で実践する。	
	4回	授業内容	
学習成果		実習生調査、細菌検査証明書、誓約書等、実習に必要な手続き書類の作成、準備ができる。	
	予習復習の内容	実習に必要な事務手続きを確認し、準備できるようにしておく。	
	5回	授業内容	事前訪問(実習打ち合わせ)について
学習成果		事前訪問の手順と留意点、準備、確認事項の検討、訪問後の活動を理解し、実践できる。	
予習復習の内容		訪問日の検討から始まる実習打ち合わせについて、事前に整理理解しておく。	
6回	授業内容	保育実習Ⅰ(保育所実習)の目的、内容、実際	・事前事後指導における、各種提出物で(事前学習課題、実習課題、自己評価、レポート等)評価する。 ・実習(保育所実習)における、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。 ・事前指導、事前学習への取り組みなどで総合的に評価する。
	学習成果	保育所実習の目的、内容、子どもの発達、1日の流れ、実習の段階を理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	実習ガイドブック、保育所保育指針、全国保育士会倫理綱領を読み、実習の目的、段階等について説明できるようにしておく。	
7回	授業内容	保育実習Ⅰ(保育所実習)の課題の明確化	
	学習成果	これまで学んできた知識、技術と事前学習、事前打ち合わせの知識を踏まえ、実習課題・目標を設定できる。	
	予習復習の内容	保育所について今まで学んだ知識と技術を整理し、実習課題と目標を設定できるようにしておく。	
	8回	授業内容	
学習成果		保育における記録の意義と目的を理解し、記録の技法を身につけ実践できる。	
予習復習の内容		専門行為としての記録の意義と目的、記録の基本について理解し、実践できるようにしておく。	
9回	授業内容	実習における指導案の作成	
	学習成果	実習における指導案作成の意味を理解し、保育の構想力・実践力の向上につなげることができる。	
	予習復習の内容	指導案が保育課程の目標を具体化する指導計画であることを理解し、作成できるようにしておく。	
10回	授業内容	保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返りと課題の明確化:ゼミ	
	学習成果	保育実習Ⅰ(保育所実習)の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。	
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。	
11回	授業内容	保育実習Ⅰ(保育所実習)の振り返りと課題の明確化:実習報告会	
	学習成果	実習報告書の作成を通して実習の総括を行い、学びを後輩に伝えることができる。	
	予習復習の内容	実習報告書の作成を通して実習を振り返り、ポイントを押さえて後輩にわかりやすく伝えることができるようにしておく。	
12回	授業内容	保育実習Ⅰ(施設実習)の目的、内容、実際	・事前事後指導における、各種提出物で(事前学習課題、実習課題、自己評価、レポート等)評価する。 ・実習(施設実習)における、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。 ・事前指導、事前学習への取り組みなどで総合的に評価する。
	学習成果	施設実習の目的、実習施設の種別、法的根拠、役割と機能、子ども・利用者の理解、1日の流れ、実習の段階を理解し、説明することができる。	
予習復習の内容	実習ガイドブック、児童福祉法、障害者総合支援法、運営指針等を読み、実習の目的、実習施設の役割等について説明できるようにしておく。		
13回	授業内容	保育実習Ⅰ(施設実習)の課題の明確化	
	学習成果	これまで学んできた知識、技術と事前学習、事前打ち合わせの知識を踏まえ、実習課題・目標を設定できる。	
	予習復習の内容	これまで学んできた知識と技術を整理し、実習課題と目標を設定できるようにしておく。	
	14回	授業内容	
学習成果		保育実習Ⅰ(施設実習)の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。	
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。	
	15回	授業内容	
学習成果		実習報告書の作成を通して実習の総括を行い、学びを後輩に伝えることができる。	
予習復習の内容		実習報告書の作成を通して実習を振り返り、ポイントを押さえて後輩にわかりやすく伝えることができるようにしておく。	

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）				担当者	中 島 恵 ・ 宮 本 美和子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		ゼミ担任のオフィスアワー及び e-mail に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	履修カルテやこれまでの学習の振り返りを通じて自らの課題を見つけ、解決していく力を身に付け、実践することができる。										
	②	これまで学んだ保育に関する学習を総合化し、保育実践力を身につけ、他者と共同しながら実践発表ができる。										
	③	コミュニケーション力や対人関係の人的総合力を高め、グループ活動や保育実践ができる。										
	④	事例研究を通して保育に関する知識と理解を深め保育者としての資質向上を図ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者として必要とされる幅広い教養を身に付け、自ら課題を見出すことができ、学びに向かい探求することができる。（専門的学習成果①④）										
	(2)	保育者として他者と協調、協働し地域社会の中で主体的、積極的行動がとれる。（専門的学習成果②③）										
授業概要	実習など、これまでの学業を通して得られた自らの課題に向き合い、その解決に取り組む授業とする。保育の場における今日の課題を取り上げ、グループ討議・事例研究・ロールプレイング・フィールドワーク等多様な演習を通して学びを深めていく。具体的には、保育実践力・保護者理解とその連携・協力の重要性を学ぶ。さらには実習中に興味関心を持った事例について事例研究を行い、発表と討議の機会を持ちレポートにまとめることで、保育者となることの意欲を高めるとともに保育者の置かれている現状や果たすべき役割について学ぶ。また、1年生前期から実施している履修カルテを継続して作成し、その内容の点検を通して自らの資質能力を確認し、課題の明確化を図る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	エピソード記録からのテーマに沿ったレポート内容及び引用文献の利用により評価する。								
		発表	40	協働性や保育実践の発表の内容により評価する。								
		平常点	10	グループ活動やロールプレイへの取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
		『幼稚園教育要領』					フレーベル館					
		『幼稚園教育要領解説』										
		『保育所保育指針』										
		『保育所保育指針解説』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名					出版社名					
		『保育実践研究抄録集』 聖和学園短期大学保育学科					聖和学園短期大学保育学科					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①子どもを取り巻く環境の変化に伴い、一人ひとりの発達段階と個々の状況に応じた教育・保育を構想・計画し、多様な能力の発達を支援できる保育者の育成を求められるため、新聞等を通じて様々な社会の出来事に関心を持つこと。特に事例研究では、文献等を読み込み乳幼児理解・教科に関する基礎知識を学ぶ。（予習2時間程度）事後学習としては、保育実践研究のレポートについてその都度フィードバックをするので、さらに文献を選択し、読み理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②事例研究のロールプレイでは、学生同士の対話的なその後の発言から自己の課題を明確にし保育実践力につなげていく。実践研究レポートについては、ゼミ担任からその都度添削を受け、研究の手法を身につけながら完成させる。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーションと履修カルテの作成	
	学習成果	教職実践演習の内容を理解し、履修カルテを作成することができる。	
2回	予習復習の内容	2年前期からの履修カルテを見直し、自己の課題について理解する。	
	授業内容	これまでの学習の振り返り	
3回	学習成果	履修カルテやこれまでの学習の振り返りを行い、自己の課題を示すことができる。	
	予習復習の内容	1年前期からの履修カルテを見直し、自己の課題および保育者としての課題について理解する。	
4回	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(1) 保育者の役割・子どもに対する責任	
	学習成果	エピソード記録から考察した、保育者の役割や子どもに対する責任などについて説明できる。	
5回	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させておく。（日誌などを参照）	
	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(2) 幼児理解やクラス経営	
6回	学習成果	エピソード記録から考察した、幼児理解やクラス運営について説明ができる。	
	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させておく。（日誌などを参照）	
7回	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(3) 教科・保育内容等の指導力	
	学習成果	エピソード記録から考察した、教科・保育内容の指導力について説明ができる。	
8回	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させ、図書館で文献を選んでおく。	
	授業内容	事例研究発表とまとめ プレゼンテーション	
9回	学習成果	エピソード記録の内容を考察し、自分自身のテーマを取捨選択することができる。	
	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させ、図書館で文献を選び、考察をする。	
10回	授業内容	実習中の保護者とのコミュニケーション	
	学習成果	実習中の保護者とのコミュニケーションについてまとめ、発表ができる。	
11回	予習復習の内容	実習中の保護者とのコミュニケーションについてまとめ記述しておく。	
	授業内容	ロールプレイングを通じた保護者理解	
12回	学習成果	事例に基づいたロールプレイを実施し、保護者の状況や気持ちの理解ができる。	
	予習復習の内容	ロールプレイを実施した後のレポートをまとめる。	
13回	授業内容	ロールプレイングを通じた保育者の役割理解	
	学習成果	事例に基づいたロールプレイを実施し、保育者の状況や気持ちの理解ができる。	
14回	予習復習の内容	ロールプレイを実施した後のレポートをまとめる。	
	授業内容	保育者の現状と役割 現職保育者の講話・ディスカッション	
15回	学習成果	保育者の現状と役割を理解し、自分自身の課題を明確にできる。	
	予習復習の内容	講話の内容をまとめ、自分自身の課題を含めてレポートを作成する。	
16回	授業内容	保育実践 フィールドワークを通して小学校教育との接続を理解する	
	学習成果	グループのメンバーと協働し、テーマに沿った指導計画立案と役割を遂行できる。	
17回	予習復習の内容	子どもの発達と興味に合わせた活動計画を立案する。	
	授業内容	保育実践研究作成 (1) 保育実践研究作成の意義と目的	
18回	学習成果	保育実践研究の意義と目的を理解し、レポート作成の作業ができる。	
	予習復習の内容	図書館で文献を選ぶ。	
19回	授業内容	保育実践研究作成 (2) 保育実践研究作成の実際 研究の手法を学ぶ	
	学習成果	保育実践研究を、文献と照らし合わせながら考察を深めることができる。	
20回	予習復習の内容	図書館で文献を選ぶ。	
	授業内容	保育実践研究報告	
21回	学習成果	保育者のおかれている現状の理解や果たすべき役割について、保育実践報告としてまとめることができる。	
	予習復習の内容	実践研究レポートの作成。	
22回	授業内容	資質能力の確認、まとめ 履修カルテの振り返りを通して学習成果の点検を行う	
	学習成果	履修カルテの振り返りを通して、保育者としての資質について課題を理解する。	
23回	予習復習の内容	実践研究レポートの作成。（抄録）	

科目名	ICT 演習				担当者	小森谷 一 朗 ・ 飯 島 典 子						
区 分	選 択	1	単 位	授業回数	8	回	授業 形態	演 習	学 年	2 年	開 講 期	後 期
				授業時間数	16	時 間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び email にて受け付ける。オフィスアワー及び email address は初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	ICT とは何かを説明できる。										
	②	幼稚園や保育所で ICT がどのように活用されているか説明できる。										
	③	幼稚園や保育所での ICT 利用法を考え、ICT の基礎的な技術を身に付けて実践に活用できる。										
	④	幼児教育における ICT の効果やメリットについて考え、保育や教材へ活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	情報機器の操作等に関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	社会で求められている情報活用の基礎力を身に付け、積極的に活用することができる。(専門的学習成果②③④)										
	(3)	代表的な ICT 機器 (PC、スマートフォン、タブレット等) の基本操作ができ、連携して活用する能力を身に付け、保育実践に活用できる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	社会全般の情報化が急速に進み、パソコンだけでなくその他の情報機器が使いやすく進歩していく中で、それらの機器に関する知識を深めることや情報そのものを使いこなすことが不可欠になってきている。これらの情報活用能力の基礎は幼児教育にある。遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動できるになることが重要とされている。そこで、本授業では、ICT 機器を情報発信ツールとして活用するためのスキルを学ぶとともに、情報機器を保育環境としてどのように活用することができるのかについて観察等を通して学び、理解を深め、実践に生かすことができるようになることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	授業内容を踏まえたレポート課題の内容を評価する。(@25点×2回)								
		作成課題	50	作成した課題を評価する。(@25点×2回)								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (1) は、専門的学習成果②・③・④にて評価を行う。 (1) は、専門的学習成果③・④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』						フレーベル館			
	厚生労働省		『保育所保育指針』						フレーベル館			
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						フレーベル館			
	飯島典子・佐藤哲也 編著		『根付く・伸びる・発展するこどもの遊び－主体性をはぐくむ保育の手法と ICT の活用－』						建帛社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		① ②										

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	保育における ICT 機器の活用について	
	学習成果	保育における ICT 機器の活用について理解する。	
	予習復習 の 内 容	予習：シラバスを読み、分からない言葉は調べ、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
	授業内容	ICT の情報発信ツールとしての活用①～お便り等の文書作成～	
2 回	学習成果	ICT を情報発信ツールとして活用することの意義やその活用方法を理解する。	
	予習復習 の 内 容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
3 回	授業内容	幼稚園見学	
	学習成果	幼稚園見学を通して、保育に ICT 機器がどのように活用されているのかを知る。	
	予習復習 の 内 容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
4 回	授業内容	幼稚園見学	
	学習成果	幼稚園見学を通して、保育に ICT 機器がどのように活用されているのかを知る。	
	予習復習 の 内 容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
5 回	授業内容	ICT の保育環境としての活用①～プログラミング教育～	
	学習成果	ICT を保育環境として活用することの意義やその活用方法を理解する。	
	予習復習 の 内 容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
6 回	授業内容	ICT の保育環境としての活用②～プログラミング教育～	
	学習成果	ICT を保育環境として活用することの意義やその活用方法を理解する。	
	予習復習 の 内 容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
7 回	授業内容	ICT の情報発信ツールとしての活用②～ドキュメンテーションの作成～	
	学習成果	ICT を情報発信ツールとして活用することの意義やその活用方法を理解する。	
	予習復習 の 内 容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
8 回	授業内容	ICT の情報発信ツールとしての活用③～ドキュメンテーションの作成～	
	学習成果	ICT を情報発信ツールとして活用することの意義やその活用方法を理解する。	
	予習復習 の 内 容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
9 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の 内 容		
10 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の 内 容		
11 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の 内 容		
12 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の 内 容		
13 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の 内 容		
14 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の 内 容		
15 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の 内 容		

科目名	全体的な計画の作成と理解				担当者	小森谷 一 朗						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び email にて受け付ける。オフィスアワー及び email address は初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	教育・保育における計画の意義と役割について理解し、説明することができる。										
	②	乳幼児の発達過程について理解し、発達過程に即した計画の重要性について説明することができる。										
	③	子どもの実際の姿を捉え、保育の連続性や子どもの発達の連続性について理解し、見通しをもった保育を構想することができる。										
	④	保育の構想に基づき、ねらいと意図をもった保育計画の作成に取り組むことができる。										
	⑤	保育計画について、他者と協同的に改善に向けたカンファレンスを行うことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育の必要性の高まりを理解し、実践において必要とされる専門的知識や理論の基礎について説明することができる。(専門的学習成果①②③④)										
	(2)	他者と協働的に学び合い、実践することができるとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。(専門的学習成果⑤)										
授業概要	教育課程・全体的な計画についてその意義や役割について理解する。また、具体的な教育課程・全体的な計画を基にした長期・短期の指導計画の役割や全体的な計画との関連性について理解する。加えて、指導計画を立てる際に必要な保育の連続性や子どもの発達についての理解も深める。これらを基にして、保育におけるねらいや計画とその構想、立案の方法について知り、学びを深める。構想した保育の計画・作成・立案に取り組み、他者と協働しながら改善に向けたカンファレンスを実践し、保育計画のブラッシュアップを図る。幼稚園教諭、小学校教諭としての実務経験をもとに実際の教育・保育目標及び保育内容や計画を紹介しながら授業を展開し、学生が自ら指導計画の立案ができることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		リアクション ペーパー	32	授業内容を踏まえたリアクションペーパーの内容を評価する。(＠4点×8回)								
		ワークシート	8	授業内で取り組むワークシートの内容を評価する。(＠4点×2回)								
		指導計画	30	作成した指導計画を評価する。								
	指導案	30	作成した指導案を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習評価⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	飯島典子・佐藤哲也 編著		『根付く・伸びる・発展するこどもの遊び－主体性をはぐくむ保育の手法と ICT の活用－』						建帛社			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』						フレーベル館			
	厚生労働省		『保育所保育指針』						フレーベル館			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	飯島典子・本郷一夫 編著		『子どもの理解と援助』						建帛社			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。指導計画の構想や立案、作成、報告等が中心となるため、授業外での学習は必須となる。指導計画作成に伴う事前調査等についても各自の課題として取り組むこと。また、各自の学習進度の応じての取組となるため学生の主体的な取組に期待する。 【事前学習（予習）】 事前に指示した内容、事前配布資料などを読み、分からない言葉は調べておくこと。また、指導計画に関連する内容については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと。 【事後学習（復習）】 毎回の学習内容を振り返りを行い、要点や疑問点、課題などについてまとめておくこと。 ②フィードバックについては以下の通りとする。 【指導計画】【指導案】実施後に授業の中で模範となる例を示し、解説する。 【リアクションペーパー】【ワークシート】実施後に記述のポイントとなる点を授業の中で解説する。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	教育課程・全体的な計画と指導計画		【リアクションペーパー①】
	学習成果	教育課程・全体的な計画や指導計画について理解するとともに、それらの関係性についての理解を深め、説明することができる。		
	予習復習の内容	予習：シラバスを読み、分からない言葉は調べ、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
2回	授業内容	子どもにとっての遊び		【リアクションペーパー②】
	学習成果	子どもにとっての遊びとはどのような意味があるのかについて理解を深め、遊びの分類や夢中度について説明することができる。		
	予習復習の内容	予習：シラバスを読み、分からない言葉は調べ、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
3回	授業内容	保育構想		【リアクションペーパー③】 【ワークシート①】
	学習成果	環境を通した保育の重要性について理解し、保育を自分なりに構想することができる。		
	予習復習の内容	予習：シラバスを読み、分からない言葉は調べ、課題意識をもつ。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。		
4回	授業内容	指導計画とストラテジー		【リアクションペーパー④】
	学習成果	保育構想を基に、そこに織り込まれる保育者の意図を考えながら、保育ストラテジーの立案に取り組むことができる。		
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。		
5回	授業内容	指導計画と教材研究		【リアクションペーパー⑤】
	学習成果	指導計画において適切なねらいとそれに基づく内容を定めることができるとともに、子どもの姿に即した指導計画の作成に取り組むことができる。		
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。		
6回	授業内容	指導計画と環境構成		【リアクションペーパー⑥】 【指導案】
	学習成果	子どもの姿を捉え、教材研究を基にした指導案の立案に取り組むことができる。		
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。		
7回	授業内容	指導計画の交流・改善		【リアクションペーパー⑦】 【ワークシート②】
	学習成果	指導計画を報告し、改善のためのカンファレンスに取り組むとともに、他者に対して改善のためのアイデアを提案することができる。		
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。		
8回	授業内容	ドキュメンテーション		【リアクションペーパー⑧】 【指導計画】
	学習成果	ドキュメンテーションの意義や役割について理解を深め、作成に取り組むことができる。		
	予習復習の内容	予習：事前に関係する文献を読み理解を深めておく。 復習：指導計画については、各自の学習進度の応じて取り組む。		
9回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
10回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
11回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
12回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
13回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
14回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			
15回	授業内容			
	学習成果			
	予習復習の内容			

科目名	保育内容 A				担当者	イワブチ 岩淵 榎子 ・ コノノ 金野 麻衣 ・ ヤマモト 山本 信						
区分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		konno.mai@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp, yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	領域の総合化を具体的に理解した上で、子どもの遊びが主体的なプロセスの中で工夫されるために必要な環境を構成するための準備ができる。										
	②	年齢・発達に応じた遊びの在り方と適切な援助方法を理解し、計画することができる。										
	③	心動かされる体験やさまざまな刺激から、豊かな感性や想像力、表現力が養われるような遊びを構築するための準備ができる。										
	④	模擬保育の実践と振り返りにより自ら創造した保育を説明するとともに、課題を見出し再計画することができる。										
	⑤	グループワークによる模擬保育の実践、ドキュメンテーション作成を通して、保育者に必要とされる協働性を高め、実践的な保育計画を立案することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	グループワークによる保育計画の立案及び模擬保育の実践を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力を高め、主体的、積極的に行動できる。(専門的学習成果②④⑤に関連)										
	(2)	子どもの主体的な遊びへとつながる行事活動を中心とした保育計画を立案することにより、保育者の社会的役割を自覚し、保育の実践につなげることができる。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(3)	自ら創造した保育を説明することにより、自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	生活や行事、遊びを通した総合的な保育内容の考案と指導方法についてカリキュラムデザインを踏まえて実践的に学ぶ。子どもの遊びを通して思考力や想像力を養い、他者と協働することや環境への関わり方などについても体得していく。具体的には、外部施設への遠足行事を中心として事前指導を含む保育計画を立案し、指導法の検討を行う。実際に外部施設の下見を行い、ICT機器を活用して企画書、しおり、おたより、ドキュメンテーションを作成し、グループごとに模擬保育を行う。行事と遊びを通した保育内容の理解をまとめとして行い、子どもの資質能力を育むための活動を発展させていくことのできる保育実践力を養う。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	35	行事と遊びを通した保育内容の理解ができていくかについて3回の発表時の資料(5%×3回=15%)及び最終データ報告書(20%)により、評価を行う。								
		発表	45	保育計画の中間プレゼン、模擬保育とプレゼン、ドキュメンテーションのプレゼンの3回の内容により評価を行う。(15%×3回=45%)								
		活動への参与	20	授業への取り組み・意欲・態度により評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果②④⑤にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果①②③にて評価を行う。 (3)は、専門的学習成果④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
	文部科学省	『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省	『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①時間外学習として、計60時間程度が必要になる。グループごとに計画を立て、取り組むこと。幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の保育内容5領域の復習、遊びの題材に関する情報収集(ICT機器の活用含む)、教材研究を行うこと。受講に当たっては自主的に学びを発展させるようにすること。なお、外部施設への移動等の費用は各自負担となる。 ②プレゼンテーション及び模擬保育実施後に、担当者による講評を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	ガイダンス、保育内容領域とカリキュラムの中の行事について、グループ分け	4回目にICT機器を利用した中間プレゼンテーションを行う。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	参考文献から5領域について復習しておく。ICT機器等を活用して遠足行事についての情報や次回までに必要な内容を調べておく。	
2回	授業内容	外部施設への遠足行事を中心とした保育計画(事前指導ふくむ)の概要をまとめ、グループ内の役割分担を決定する。A:保育計画(事前おたより、行事後の模擬保育)、B:企画担当(家庭用・園用しおり、企画書、反省報告書)、C:保育計画(事前指導、ドキュメンテーション)	
	学習成果	グループワークに積極的に参加し、具体的な保育計画の立案に関わることができる。	
	予習復習の内容	各自の担当部分について、調べた内容を中間プレゼンに向けて整理する。	
3回	授業内容	それぞれの担当の保育計画の立案。ありきたりではない模擬保育実践を目指す。	
	学習成果	保育計画の立案から、事後の指導と記録まで見直しをもって計画を立てることができる。	
	予習復習の内容	次回のプレゼンテーションに向けた準備を行う。	
4回	授業内容	中間プレゼンテーション(各グループ15分×3)保育計画等の見直しと下見に向けた打ち合わせ	
	学習成果	ICT機器を利用して、保育計画の中間プレゼンテーションを行うことができる。	
	予習復習の内容	他グループの発表からの学びを取り入れ、保育計画の見直しをする。	
5回	授業内容	外部施設の下見①保育者が行事の下見に行く場合に確認しなければならない点を踏まえて行う。	指定期日までに模擬保育実践の指導案、保育計画、企画書等の課題をデータで提出
	学習成果	行事の下見において確認すべき内容は何か把握し、リストの作成と確認ができる。	
	予習復習の内容	下見において確認すべき内容をリストアップしておく。	
6回	授業内容	外部施設の下見②自ら動物とふれあい、子どもたちに何を体験させたいのかを考える。	
	学習成果	子どもたちに体験させたい内容を具体的に述べるができる。	
	予習復習の内容	豊かな体験となるように必要な事項をまとめておく。	
7回	授業内容	外部施設の下見③立案した保育計画を検証しながら下見を行う。	
	学習成果	立案した保育計画の見直しすべき点、課題を発見することができる。	
	予習復習の内容	発見した課題を記録しておく。	
8回	授業内容	下見の結果を踏まえ、保育計画中の各担当の内容の見直しと確認	
	学習成果	グループ内で協力して保育計画及び企画書の見直しを行うことができる。	
	予習復習の内容	グループごとに見直した結果を共有し、模擬保育実践とプレゼンに向けて方向性を決定する。	
9回	授業内容	事後指導の模擬保育実践の準備、おたより・しおり・企画書のプレゼンの準備	
	学習成果	模擬保育実践の準備に主体的に関わり、おたより・しおり・企画書プレゼン準備についても自分の意見を述べるができる。	
	予習復習の内容	模擬保育のロールプレイに向けて必要な材料を揃える。企画書・おたより・しおり等のプレゼンに向けた準備を行う。	
10回	授業内容	模擬保育のロールプレイ、おたより・しおり・企画書・反省報告書等のプレゼンの準備	
	学習成果	模擬保育のロールプレイに積極的に参加することができる。	
	予習復習の内容	ロールプレイにより見えた課題を実践までに解決する。おたより・しおり・企画書・反省報告書等を完成させる。	
11回	授業内容	グループ①模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ②③は模擬保育に子ども役で参加する	11～13回の各回において、一つのグループが模擬保育実践及びプレゼンを行う。
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。	
	予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。	
12回	授業内容	グループ②模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ①③は模擬保育に子ども役で参加する。	
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。	
	予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。	
13回	授業内容	グループ③模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ①②は模擬保育に子ども役で参加する。	
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。	
	予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。	
14回	授業内容	自グループの模擬保育実践のドキュメンテーション作成、発表準備。	指定期日までにドキュメンテーション等のデータを提出
	学習成果	模擬保育実践をドキュメンテーションにまとめる作業に積極的に関わることができる。	
	予習復習の内容	ドキュメンテーションを完成させ、データにまとめる。	
15回	授業内容	まとめ 模擬保育のドキュメンテーション発表、データおよび作成物提出。行事と遊びを通した保育内容の理解	
	学習成果	行事と遊びを通した保育内容を理解し、言葉で説明できる。	
	予習復習の内容	これまでの学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に対して具体的な評価を行う。	

科目名	保育内容 B				担当者	ナカジマ 中島 恵 ・ サトウ 佐藤 万利子 ・ コモリヤ 小森谷 一朗						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 e-mail:nakajima.megumi@seiwa.ac.jp, sato.mariko@seiwa.ac.jp, komoriya.ichiro@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	自らが遊びこむことを通して、「遊び」の意味を理解し、説明できる。										
	②	「遊び」こむ実体験の中から、保育内容の5領域の意義を理解し、説明できる。										
	③	「遊び」における表現と伝えあいを、保育5領域の総合化を通して理解し、実践できる。										
	④	幼児の発達・成長を考えながら「遊び」を発展させていく力を獲得できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる保育内容の5領域を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身につけ、活用することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長を促す造形表現力、音楽表現力、身体表現力を習得し、実践できる。(専門的学習効果③④に関連)										
	(3)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、子どもの意欲的な活動を支援することができる。(専門的学習効果④に関連)										
授業概要	津守真は、幼児の遊びの世界の、人間の精神の発達における意味を認識することの大切さを述べている。この授業では、表現し、伝え合い、展開していく「遊び」を自らが遊びこむ体験を通して、その意味を理解する。「遊び」が保育内容の5領域によって形作られていることを体験的に理解し、特に表現の多様性、様々な要素によって伝えあい、発展していくことを学ぶ。言葉遊び、素話、劇遊び、音楽劇等、表現と伝えあいによる広がりを通して「あそび」を発展させていく力を獲得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各表現活動を振り返り、保育の全領域にまたがる総合的な活動の理解を観点に評価を行う。各10%を3回実施する。								
		発表	50	劇遊び上演に向けての練習、話し合い、発表までの過程の取り組み方と発表の内容により評価を行う。各25%を2回実施する。								
	平常点	20	表現活動や発表への取り組み、意欲、態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習効果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくる。(予習：週2時間程度) 事後学習としては、レポートを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②練習過程と発表に対するフィードバックは実施後に、映像機器を活用して振り返り、講評を行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育内容Bの授業内容、目的と計画	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
	授業内容	児童文化財による表現①	
2回	学習成果	児童文化財による子どもの聴く力、想像力、考える力、集中力が育つことを理解する。	
	予習復習の内容	児童文化財を使用した発表の工夫について振り返りをする。	
3回	授業内容	児童文化財による表現②	
	学習成果	児童文化財による表現の発表。	
	予習復習の内容	児童文化財発表の内容を楽しみながら理解を深める。	
	授業内容	音楽劇（子供と一緒に音・音楽・物語りで楽しむ）について①題材の選択	
4回	学習成果	複数の音楽劇上演映像、テープを脚本を見ながら視聴することで理解し、演目の選択ができる。	
	予習復習の内容	保育者が子どもと共に楽しみながら5領域を育むために音楽劇のねらいを考える。	
5回	授業内容	音楽劇について②配役・担当の配置	
	学習成果	上演する音楽劇の配役（登場人物・ナレーター・司会）音楽、担当（音楽・衣装・大道具）を決定できる。	
	予習復習の内容	決定した上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。	
	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて（1）	
6回	学習成果	3グループ（3歳児・4歳児・5歳児）の発達に合わせた脚本の劇遊びを選択することができる。	
	予習復習の内容	発達段階に合わせて劇遊び脚本の「ねらいと内容」を考え、育みたい資質・能力を「幼稚園教育要領」の領域で確認する。	
7回	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて（2）	
	学習成果	劇遊びの構成・演出・振付を、子どもが表現を楽しめるよう「ねらい」に照らし合わせて考え組み立てることができる。	
	予習復習の内容	決定した3グループ（3・4・5歳児）向け上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。	
	授業内容	幼稚園での劇遊びによる表現（3）	
8回	学習成果	劇遊びの中で、子ども自身も登場人物になって楽しめる活動を考え計画できる。	
	予習復習の内容	劇遊びから劇ごっこ（子ども参加型の劇遊び）への保育の展開を考える。	
9回	授業内容	幼稚園での劇遊びの実践（4）【3クラス（3・4・5歳児）に分かれて演じる】	
	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して劇遊びを実践できる。	
	予習復習の内容	脚本・演出を確認して衣装、小道具の準備等、グループで仲間との協働作業をする。	
	授業内容	音楽劇③劇の演出を考える	
10回	学習成果	劇遊びの経験から得た課題を基に、音楽劇の表現力を高めるための工夫を考え計画できる。	
	予習復習の内容	幼稚園で実践した劇遊びを振り返り、課題を抽出する。	
11回	授業内容	音楽劇④歌と表現での劇世界を考える	
	学習成果	各担当（登場人物、音楽、ナレーター）で演出や表現方法を話し合い独自の音楽劇を創作することができる。	
	予習復習の内容	脚本・演出を確認、考察して、グループで仲間との協働作業をする。	
	授業内容	音楽劇⑤演じることを楽しむ	
12回	学習成果	子どもと共に、歌って踊って役になりきって楽しめるように演じることができる。	
	予習復習の内容	衣装、小道具の製作準備等を仲間と協働作業をする。	
13回	授業内容	音楽劇の上演に向けて	
	学習成果	練習をビデオで撮影して客観的に見ることで、演技や表現を振り返り、修正できる。	
	予習復習の内容	音楽劇を通して、子どもが音楽や表現することの楽しさを味わえるよう考える。	
	授業内容	まとめ	
14回	学習成果	「遊び」は保育の全領域にまたがる総合的な活動で、子どもの発達や成長を育むことを理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	素話、劇遊び、音楽劇の5領域との関係をまとめる。	
15回	授業内容	音楽劇上演	
	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して音楽劇を実践できる。	
	予習復習の内容	心身ともにコンディションを整えて、音楽劇の発表に臨む。	
	学習成果	習得した知識や技能を活かして、聖和幼稚園で劇遊びを実践する。	

科目名	保育内容 C				担当者	佐々木 貴弘 ・ 宮本 美和子 ・ 君島 智子						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び e-mail:miyamoto.miwako@seiwa.ac.jp, sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp, kimijima.tomoko@seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する										
専門的 学習成果	①	伝承遊びと子どもの発達段階との関係を理解し保育を計画することができる。										
	②	遊びの伝承性について理解し、その為に必要な環境について実践から理解し説明することができる。										
	③	遊びにおける表現と伝え合いを5領域の総合化を通して理解し説明することができる。										
	④	適切な援助方法や学びの連続性を理解し保育を展開できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	保育者の社会的役割を自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(4)	保育者及び社会人として、必要なコミュニケーション能力を有し、自ら主体的、積極的行動がとれる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	子どもの成長は、さまざまな保育の営みや取り組みによって大きく影響される。ここでは、昔から感性を培う上で重要とされてきた遊びの文化を取り上げ、子どもと伝承遊びに着目し、遊びのもつ表現方法、伝え合いの意味、それらで深化する人間関係の変化について、受講者それぞれの感性による気づきを通して発見的に学んでいく。また、グループ活動を中心に、実際に伝承遊びを体験し、その活動内容から学び得た事を基に、互いに学び合い、伝え合い、遊び込む経験を通して、伝承遊びと子どもの成長、及び学びの連続性について、理論的および実践的な面から総合的に理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	40	伝承遊びについての理解できているかを観点に評価する。								
		発表	40	伝承遊びによる実践内容が子どもの成長に沿うものであったか、また実践の中で子ども達の理解度から評価する。								
汎用的 学習成果	平常点	20	授業への取り組み・意欲・態度を評価する。									
	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習評価の評価により評価を行う。 (1) 汎用的学習評価①で評価を行う。 (2) 汎用的学習評価②で評価を行う。 (3) 汎用的学習評価③で評価を行う。 (4) 汎用的学習評価④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	聖和学園短期大学保育学科		『保育指導法実践研究報告書』						郵辨社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	鈴木敏朗・本間雅夫		『わらべうたによる音楽教育』						自由現代社			
	小川清実		『子どもに伝えたい伝承遊び 起源・魅力とその遊び方』						萌文書林			
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）						厚生労働省			
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』						フレーベル館			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）						文部科学省			
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』						フレーベル館			
内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）						内閣府・文部科学省・厚生労働省				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。配布資料による事前学習、事後学習を行うこと。(週2時間程度) 授業の中で作成する指導案、授業後のレポートなどはしっかりとまとめ、期限を守って提出すること。 ②レポート、指導案に対するフィードバックは提出後に解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	保育内容 C の授業内容目的と計画		○目標を立てる(レポート)オリエンテーションから各自目標を考える。
	学習成果	子どもと伝承遊びとの関係について意識的に考える。		
	予習復習の内容	実習での子どもの様子、自分の子ども時代と遊びとを振り返ると共に伝承遊びについて調べる。		
2回	授業内容	言葉による表現① 素話を学ぶ。		○まとめ(レポート)素話と5領域の関わりを認識し理解を深める。
	学習成果	素話の概要を知り、講演を聞く。素話の実践活動は、子どもの聴く力、想像力、考える力、集中力が育つことを理解する。		
	予習復習の内容	素話の題材を選び、原稿を声を出して読みながら内容をイメージする。		
3回	授業内容	言葉による表現② 素話を語る。		
	学習成果	素話に表情を付け声の抑揚を変えながら語り、聞き手に物語のイメージを伝えることができる。		
	予習復習の内容	幼児のための素話(昔話)の内容を楽しみながら実践を通して理解を深める。		
4回	授業内容	わらべうた遊びの実践① 子どもとの信頼関係を結ぶわらべうたを体験する。		○まとめ(レポート)わらべうたと5領域の関わりを認識し理解を深める。
	学習成果	わらべうたを実践できる。活動の特性と集団生活の中での取り入れ方を理解する。		
	予習復習の内容	授業内容を基にわらべうた遊びを理解し、実践する。		
5回	授業内容	わらべうた遊びの実践② うたや動作で仲間とつながるわらべうたを体験する。		
	学習成果	わらべうたを実践できる。関連の活動を実践し、レポートにまとめる。		
	予習復習の内容	授業内容を基にわらべうた遊びを理解し、実践する。関連活動の振り返りをする。		
6回	授業内容	伝承遊び(玩具・楽器等)の実践① 伝承玩具、楽器等の体験。		○まとめ(レポート)伝承遊びと5領域の関わりを認識し理解を深める。
	学習成果	取り上げた題材を実際に体験し、子どもを対象とした活動を考える事が出来る。		
	予習復習の内容	子どもの発達に合わせた活動についてあらかじめ調べておく。		
7回	授業内容	伝承遊び(玩具・楽器等)の実践② 伝承遊びの実践に向けての活動案を作成する。		
	学習成果	伝承遊びを体験し、共に活動し、伝え合う中でさらに遊びの伝承性について理解する。		
	予習復習の内容	保育現場を想定した実践にむけて、イメージを拡げ、伝え方を考える。		
8回	授業内容	伝承物の模倣製作① 伝統文化について考え、地域や季節行事等で見える伝承物(お面、灯笼、神輿等)について知る。		○まとめ(レポート)伝承物の製作と5領域の関わりを認識し理解を深める。
	学習成果	伝承物を題材にした模倣作品の製作を通して子どもと地域行事の関わりを考える。		
	予習復習の内容	造形的な特徴を捉える。また、子ども向けにアレンジした製作目標を考えておく。		
9回	授業内容	伝承物の模倣製作②		
	学習成果	実製作をすることで、構造的な理解に繋がり、特徴や仕組みを知る。		
	予習復習の内容	保育現場で行う季節の行事等と関連付け、展示方法や活用法を考える。		
10回	授業内容	伝承物の模倣製作③ 実製作と鑑賞		
	学習成果	製作した作品を身に付け、変装や変身あそびを行い、子どもの表現活動への応用する事が出来る。		
	予習復習の内容	製作物を基に活用法を考え、あそびや表現活動に発展させる。		
11回	授業内容	保育実技研修～保育現場で受け継がれるあそびうたを中心に～		○感想(レポート)体験的に学んだ事を踏まえ感想をまとめる。
	学習成果	保育現場で受け継がれる「手遊び、あそびうた、集団遊び」を、外部講師から学ぶ。		
	予習復習の内容	学び得たものを自分のレパートリーに加えられるよう反復し身に付ける。		
12回	授業内容	書道による表現。和筆や墨を使用し「書の世界(墨絵含む)」を通して和の心を考える。		○まとめ(レポート)書道と5領域の関わりを認識し理解を深める。
	学習成果	書き初めや墨絵(絵葉書等)を行い、日本の心や文化について考えることができる。		
	予習復習の内容	書き初め等について、調べ学習をしてその意味を再確認する。		
13回	授業内容	伝承遊びの振り返り ドキュメンテーション制作の発表を行う。		○総括これまで行った活動を基に「学びの連続性について」制作してきたドキュメントや活動計画などを発表、提出する。
	学習成果	伝承遊びについてドキュメンテーションを発表し、それについて説明することができる。		
	予習復習の内容	自ら作成したドキュメントを基に授業を振り返り、学び合いを通して考えを深める。		
14回	授業内容	伝統料理を取り上げ、調理実習を通して、食育の在り方や伝え方などを学ぶ。		
	学習成果	地域性(特産物、伝統食材、伝統料理等)を知り、それを取り上げた食育について考える。		
	予習復習の内容	自分の故郷等で受け継がれている伝統料理について調べる。		
15回	授業内容	14回の授業を振り返りまとめを行う。		
	学習成果	伝承遊びを通して、子どもの学びの連続性についても理論的および実践的な面から総合的に理解する。		
	予習復習の内容	将来の就職先における実践に向けて、本授業における学びを振り返りレポートにまとめる。		

科目名	ピアノⅡ				担当者	佐藤万利子・岩淵撰子・他						
区分	選択	1	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	60	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		sato.mariko@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp										
専門的 学習成果	①	習得した基礎的なピアノのテクニックをさらに向上させ、豊かな表現力をもってピアノ演奏ができる。										
	②	初見視奏、コード奏法など保育現場で応用できるピアノ独奏及び伴奏技能を高め、実践できる。										
	③	基本的な音楽理論を理解し、簡単な曲を初見で演奏できる。										
	④	子どもを前にして、楽しく弾き歌いを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	基礎的なピアノのテクニックをさらに向上させることによって、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を習得し、実践できる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	初見視奏やコード奏法、楽曲のアレンジなどの応用力を高め、豊かな表現力をもってピアノを演奏できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	挨拶の歌、季節の歌や行事の歌など様々な場面で用いられる子どもの歌の弾き歌いを数多く行い、保育現場での実践につなげることができる。(専門的学習成果②④に関連)										
	(4)	レッスンや試験で弾くことにより人前で演奏する時の態度・マナーを身につけ、地域社会で活用することができる。(専門的学習成果①④に関連)										
授業概要	ピアノⅠで習得した基礎的なテクニックをさらに向上させて、保育現場で役立つような応用力を養う。前期は幼稚園教育実習や保育所保育実習に備えて、あいさつの歌や季節感のある子どもの歌の弾き歌いを中心にレッスンをを行い、子どもの前で楽しく弾き歌いができるようにする。また、マーチ、ランニング、スキップ、ギャロップ、ワルツなどの音楽も経験する。いつでも弾き歌いできるレパートリーを広げ、感性豊かな保育者としての基礎を形成し、保育実践の場で活用できるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	前期末及び後期末に演奏試験を行い、全担当教員により評価する。								
		レポート										
	平常点	50	レッスンへの取り組み・意欲・態度により各担当教員が評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④により評価を行う。 (4) は専門的学習成果①④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
	小林美実監修・井戸和秀編		『こどものうた100』					チャイルド社				
	小林美実編		『続こどものうた200』					チャイルド社				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
	全国大学音楽教育学会編		『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』					音楽之友社				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①音楽に関わる基本的な技能の上達は、毎日の反復練習と各自の熱意が大切です。予習復習を含めて毎日ピアノに触れて練習を行いましょう。練習の継続が基礎的なテクニックの習得につながります。音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励みましょう。 ②課題動画提出後に、担当教員によるレッスン指導内容とアドバイスのフィードバックを行う。										

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション、基礎の復習	16回	授業内容	後期のオリエンテーション。	○レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 ○レッスンの記録にまとめて書いているか。
	学習成果	ピアノⅠで習得したピアノの基礎的なテクニックが身についている。		学習成果	オリエンテーションの内容をレッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	ピアノの基礎テクニックを復習し、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を練習する。練習の記録をつける。	
2回	授業内容	春の歌：小鳥の歌、おべんとう、みんなのうた：そらだったらいいのにな	17回	授業内容	みんなのうた：ドレミの歌、たのしいね	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	課題の歌をリズムに注意して弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を付点リズムを生かして弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	次回の課題を正しい指使いで練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を付点リズムを生かして練習する。練習の記録をつける。	
3回	授業内容	春の歌：おかあさん、あめふりくまのこ、みんなのうた：世界中の子どもたちが	18回	授業内容	みんなのうた：小さな世界、七つの子	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	課題の歌をテンポ、強弱、曲想に気付けて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌の世界観を生かし、豊かな表現で弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲の世界観が表現できるように練習する。練習の記録をつける。	
4回	授業内容	夏の歌：たなばたさま、みずあそび、みんなのうた：バスごっこ、パレード	19回	授業内容	みんなのうた：カレンダーマーチ、おうま	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	夏の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を適切な歌詞の割り付けで弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を適切な歌詞の割り付けで練習する。練習の記録をつける。	
5回	授業内容	夏の歌：こおろぎ、なみとかいから、みんなのうた：ホ！ホ！ホ！、さんぽ	20回	授業内容	みんなのうた：ハッピーチルドレン	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	夏の歌を歌詞の意味を考えて表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を明るく楽しく弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を明るく楽しく弾き歌いできるように練習する。練習の記録をつける。	
6回	授業内容	秋の歌：大きな栗の木の下で、みんなのうた：アイスクリームのうた	21回	授業内容	みんなのうた：はくのミックスジュース	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	コード奏法により伴奏をつけることができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌をテンポの変化に注意して弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	コード奏法を復習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲をテンポの変化に注意して練習する。練習の記録をつける。	
7回	授業内容	秋の歌：小さい秋みつけた、みんなのうた：南の島のハメハメハ大王	22回	授業内容	みんなのうた：はくらはみらいのたんけんたい	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	短調の曲の雰囲気を考えて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を強弱を生かして豊かな表現で弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を豊かな表現で弾き歌いできるように練習する。練習の記録をつける。	
8回	授業内容	秋の歌：たきび、みんなのうた：動物園へいこう	23回	授業内容	みんなのうた：はじめの一步・その他	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	季節感のある歌を弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を曲想を生かして弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を曲想を考えて練習する。練習の記録をつける。	
9回	授業内容	季節のうた：きのこ、赤とんぼ	24回	授業内容	季節の歌：北風小僧の貫太郎	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	歌の中の調性の変化を感じて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を両手伴奏で弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を両手伴奏型で練習する。練習の記録をつける。	
10回	授業内容	季節のうた：村まつり、虫のこえ	25回	授業内容	後期試験曲の選曲	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	お祭りの雰囲気を考えて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲の選曲に積極的に関わることができる。	
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	決まった試験曲の譜読みをする。練習の記録をつける。	
11回	授業内容	前期試験曲の選曲	26回	授業内容	後期試験の指導1回目	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	前期試験曲の選曲に積極的に関わることができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲の概要をつかみ、正しい指使いで弾くことができる。	
	予習復習の内容	試験曲の概要を掴み、正しい指使いで練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	試験曲を正しい指使いで、両手で弾く練習をする。	
12回	授業内容	前期試験曲の指導1回目。指使い、拍子、テンポ等の確認	27回	授業内容	後期試験の指導2回目	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	正しい指使いを確認し、試験曲を片手ずつ弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲をゆっくり両手で弾けるようになる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	試験曲をゆっくり両手で弾く練習。練習の記録をつける。		予習復習の内容	試験曲を歌って弾く練習をする。練習の記録をつける。	
13回	授業内容	前期試験曲の指導2回目。ゆっくり両手で弾けるようにする。難しい箇所を確認する。	28回	授業内容	後期試験の指導3回目	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	試験曲をゆっくり両手で弾けるようになる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲を歌って弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	歌いながら弾けるように練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	試験曲を通して、曲想を考えて練習する。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
14回	授業内容	前期試験曲の指導3回目。歌いながら弾く。	29回	授業内容	後期試験の指導4回目	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	歌いながら全体を通して弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲を通して、表情豊かに弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	歌詞の意味を考えて歌えるように練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	リハーサルに向けて通して練習する。	
15回	授業内容	前期試験曲のリハーサル。試験本番に向けた練習の仕方について	30回	授業内容	後期試験のリハーサル	○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、課題を演奏する動画を撮影してGoogle Classroomへ提出する。
	学習成果	リハーサルで試験と同様に演奏することができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	リハーサルで試験と同様に演奏することができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。	
	予習復習の内容	リハーサルで見えた課題を克服し、試験に向けて練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	リハーサルで見えた課題を克服できるように練習する。	

科目名	子どもと楽器あそび				担当者	サ 佐 藤 万利子 ・ 伊 岩 淵 撰 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	任意の楽器を使ってアンサンブルすることができる。										
	②	子どもの歌の器楽アンサンブルを完成させ、発表することができる。										
	③	簡単な編曲をすることができる。										
	④	適切な手順でアンサンブルを完成することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	器楽を通して豊かな感性や表現力を養い、保育者および社会人として地域社会で活用することができる。(専門的学習成果①②④に関連)										
	(2)	アンサンブルを体験することで、他者と強調する心を持ち、地域社会でいかすことができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(3)	編曲の基礎を身につけることで子どもの音楽活動の支援ができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(4)	楽器演奏や編曲を通じて自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(専門的学習成果①③に関連)										
授業概要	楽器を活用し、多様なアンサンブルと、ごく簡単な編曲の方法を体験する。 試験は、任意のメンバーでグループを組み、任意の曲を選び、演奏するクラスコンサートとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	70	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
	後期試験	30	グループごとに編曲したものや、任意の楽曲を演奏、クラスコンサートとする。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果③で評価を行う。 (4)は専門的学習成果①③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①練習は基本的に授業時間内とするが、時間外に練習する際は楽器の取り扱い、管理、楽器庫の鍵の管理に注意すること。(15h程度の時間外学習を要する) ②楽譜が渡ったら練習すること。楽器が使えない場合は楽譜を読む、ピアノで弾くだけでも大変効果的である。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	アンサンブルすることの意義、授業の内容について。各楽器に触れる。アレンジ基礎1、担当楽器アンケー	全体合奏で成果を確認。 セクション練習、全体合奏で確認。 全体合奏で成果を確認。 地域社会での発表の取り組み
	学習成果	任意の楽器の扱い方に慣れる。	
	予習復習の 内 容	コードネームの復習。	
2回	授業内容	アレンジ基礎2	
	学習成果	任意の楽器の音出し、掃除も含め扱い方に慣れる。	
	予習復習の 内 容	コードネームからの低音部の動きを作れるようにする。	
3回	授業内容	任意の曲の編曲に取り組む。アレンジ基礎3	
	学習成果	コードネームから簡単なハーモニーを作ることができる。	
	予習復習の 内 容	作ったハーモニーの練習もする。	
4回	授業内容	全体合奏。	
	学習成果	不明な点や不可能な部分は解決できるよう、個人やグループで行動できる。	
	予習復習の 内 容	譜読みの復習。ピアノで弾くほか、歌う。	
5回	授業内容	子どもの歌のアレンジを行なう。アレンジ応用1	
	学習成果	楽器で音を出すことができる。	
	予習復習の 内 容	作ったアレンジの練習をする。	
6回	授業内容	全体合奏。	
	学習成果	不明な点や不可能な部分は解決できるよう、個人やクラスで行動できる。	
	予習復習の 内 容	譜読みの復習。ピアノで弾くほか、歌う。	
7回	授業内容	1,2曲合わせて個人練習のほか、パート練習。後半合奏。	
	学習成果	パート内で合わせるができる。	
	予習復習の 内 容	担当楽器の復習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
8回	授業内容	個人練習のあと、セクション(パートより大人数で)練習、全体合奏。	
	学習成果	セクションで互いに気を配りつつアンサンブルの精度を上げていくことができる。	
	予習復習の 内 容	担当楽器の復習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
9回	授業内容	個人練習のあと、セクション練習、全体合奏。	
	学習成果	より美しい音で、アンサンブルの精度を上げていくことができる。	
	予習復習の 内 容	担当楽器の復習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
10回	授業内容	合奏の仕上げ。地域貢献活動。	
	学習成果	楽しくアンサンブルできる。地域貢献活動のためのグループを組みプログラムを考える。	
	予習復習の 内 容	グループの連絡を密にして準備する。	
11回	授業内容	本番に向けての練習。	
	学習成果	楽しく演奏できる。	
	予習復習の 内 容	グループの連絡を密にして準備する。	
12回	授業内容	本番に向けてグループごと曲とともに使用楽器を決定、アレンジも考える。	
	学習成果	任意の楽器を練習できる。任意の曲をアレンジできる。	
	予習復習の 内 容	グループごと相談してアレンジする。担当楽器の練習。	
13回	授業内容	グループごとにアレンジ、練習に入る。	
	学習成果	任意の曲をアレンジできる。任意の楽器を演奏できる。	
	予習復習の 内 容	担当楽器の練習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
14回	授業内容	グループごとにアレンジ、練習。	
	学習成果	アレンジをより効果的になるよう検討できる。よりよい演奏ができる。	
	予習復習の 内 容	担当楽器の練習。	
15回	授業内容	地域社会で発表。	
	学習成果	アレンジをより効果的になるよう検討できる。よりよい演奏ができる。	
	予習復習の 内 容	担当楽器の練習。	

科目名	子どもと自然				担当者	シバタ 卓						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業後または、メール (shibatasu@koriyama-kgc.ac.jp) にて行う。										
専門的 学習成果	①	北欧諸国の保育と自然保育の仕組みについて説明できる。										
	②	日本の子どもを取り巻く現状を理解し、自然保育や野外教育の意義について説明できる。										
	③	自然の魅力を活かした保育技術を計画することができる。										
	④	自然保育・野外教育を指導・展開するための方法について説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	海外の保育事情や自然保育を理解し、保育者の専門性を探求することができる。(専門的学習成果①②)										
	(2)	地域の自然環境を理解し、発育発達に応じた保育を計画・展開・評価することができる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	はじめに、北欧諸国の保育実践を紹介しながら、日本と異なる文化・価値観・保育カリキュラム等について理解を深める。また、日本の子どもを取り巻く環境(物的環境・生活環境など)から課題を抽出し、子どもと自然について議論する。また、日本における野外保育・自然保育の実践から、5領域との関連について横断的に理解する。さらに、学外の自然環境を活用して保育内容の計画・実施・教材研究を行い、野外教育と自然保育の展開方法を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		課題	50	レポート・課題(各2回)								
		ポートフォリオ	50	提出2回 毎回学習後に各自振り返りを実施し、学習内容を記載する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①②にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	柴田卓 石森真由子 編著		『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』							みらい		
	西浦和樹 翻訳		『北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集』							北大路書房		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	谷雅泰 青木真理編著		『転換期と向き合うデンマークの教育』							ひとなる書房		
	文部科学省		『幼稚園教育要領』							フレーベル館		
	厚生労働省		『保育所保育指針』							フレーベル館		
内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							フレーベル館			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①時間外学習(60時間)として、授業で学習した内容を上記テキストのポートフォリオにまとめること。 ②疑問点等は翌週の授業でフィードバックできるよう各自で考察し整理しておくこと。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	オリエンテーション 授業内容の説明 子ども時代の遊びを振り返る		ポートフォリオ
	学習成果	子どもにとっての遊びの意義を説明できる。		
2回	予習復習の内容	予習：イニシアチブゲームとは何か調べる。		ポートフォリオ
	授業内容	外遊び1 自然遊びの実践と方法の理解(イニシアチブゲーム)		
3回	学習成果	イニシアチブゲームにおける指導者の関わり方について説明できる。		ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：グループにおける自身の役割など、学びの物語の視点から捉えてみる。		
4回	授業内容	外遊び2 自然遊びの実践と方法の理解(自然物を活用した遊び)		ポートフォリオ
	学習成果	自然物を活用した遊びの可能性を表現できる。		
5回	予習復習の内容	復習：実施した遊びの発展的連続性についてポートフォリオに記入する。		ポートフォリオ
	授業内容	外遊び3 自然遊びの実践と方法の理解(スウェーデンの事例から)		
6回	学習成果	スウェーデンのアウトドアを活用した数学・理科などの活動を体験し報告することができる。		ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：運動遊びの横断的な可能性について復習する。		
7回	授業内容	外遊び4 自然遊びの実践と方法の理解(日本の伝承遊び)		ポートフォリオ
	学習成果	日本の伝承あそびにおける意義を捉え直し、説明できる。		
8回	予習復習の内容	予習：デンマークについて調べる。		ポートフォリオ
	授業内容	ディスカッション1 「デンマークの社会と子育て」		
9回	学習成果	幸福感・民主主義・子ども観について報告できる。		ポートフォリオ 課題提出(レポート)「北欧の自然保育に関して」
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる。		
10回	授業内容	ディスカッション2 「ドイツ・デンマーク・日本の森のようちえん」		ポートフォリオ
	学習成果	森のようちえん・自然保育について、説明できる。		
11回	予習復習の内容	予習：フィンランド・スウェーデンについて調べる。		ポートフォリオ
	授業内容	ディスカッション4 「外遊びを楽しむための関わりとリスクマネジメント」		
12回	学習成果	リスクの理解と保育者とのかわりについて説明できる。		ポートフォリオ 課題提出「計画表」
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる。		
13回	授業内容	「園外保育の計画」		ポートフォリオ
	学習成果	園外保育を計画する上で重要となる視点を理解し、計画できる。		
14回	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる。		ポートフォリオ
	授業内容	フィールドワーク① 「自然遊びの創作と教材研究」		
15回	学習成果	自然遊びの教材を作成できる。		ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる。		
16回	授業内容	フィールドワーク② 「創作した外遊びの発表・実践」		ポートフォリオ
	学習成果	創作した遊びを実践し、子どもの視点について報告できる。		
17回	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる。		ポートフォリオ
	授業内容	フィールドワーク③ 「創作した外遊びの発表・実践」		
18回	学習成果	創作した遊びを実践し、保育者の視点について報告できる。		ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる。		
19回	授業内容	フィールドワーク④ 「振り返りとお便り作り」		ポートフォリオ
	学習成果	園外保育等で保護者に何を伝えるか等、お便りの作り方を知り、作成できる。		
20回	予習復習の内容	予習：雪遊びの種類と準備物を調べる。		ポートフォリオ提出 課題提出「お便り」
	授業内容	外遊び5 雪遊びの実践と方法の理解		
21回	学習成果	雪遊びの導入展開まとめの方法について説明できる。		ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる。		
22回	授業内容	ふりかえりとまとめ		課題提出(レポート)「子どもと自然に関して」
	学習成果	「子どもと自然」に関して、自身の学習成果を客観的に捉え、まとめ報告できる。		
23回	予習復習の内容	なし		課題提出(レポート)「子どもと自然に関して」
	授業内容	ふりかえりとまとめ		

科目名	保育実習Ⅱ				担当者		佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩淵 摂子					
区分	選択	2	単位	授業回数	おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		担当者（佐々木・中島・岩淵）の研究室への訪問またはメール（授業内で指示する）。										
専門的 学習成果	①	保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ中で、これまで得た知識や技能を関連づけることができる。										
	②	実習や既習の教科の内容を、子どもの姿を予測し仮説を立てながら保育実践に応用することができる。										
	③	観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について、具体的な事例を通して学び、一般化することができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にした上で、他者と討議することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育士の専門性について理解し、子どもの理解・支援に主体的に取り組む中で、自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げることができる。（専門的学習成果②③④⑤）										
	(2)	他者との協働や議論を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力や学びに向かい探求を続ける姿勢を養い、地域社会における保育者の役割について論じることができる。（専門的学習成果①④⑤）										
授業概要	保育所における総合実習と位置づけ、保育実習Ⅰで学んだことを基に、実践的な応用能力をさらに深めることを目的とする。さらに、指導計画の立案とその実践方法について体験し、理解を深めていく。また、乳児保育・延長保育・障害児保育など多様な保育ニーズに基づく具体的な保育所の対応と実践を体験するとともに、保護者との連携の方法や家庭と保育所との関係についても具体的な場面を通して学び、保育所の役割と課題について、自分の考えの表現や他者との討議を通して学びを深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		実習状況・訪問指導	20	巡回指導を含め、実習に取り組む姿勢や、子どもとかわる姿等、総合的に評価する。								
		実習先からの評価	40	実習Ⅱの評価表に基づき、実習態度・実習内容・実習記録について評価する。								
	実習日誌	40	日誌の内容・提出状況・次の保育に生かすことができたかについて評価する。									
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	聖和学園短期大学		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	厚生労働省		『保育所保育指針』（解説書含む）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①実習に臨むにあたり必要な教材の準備や、保育所保育指針の確認等の事前学習を行うこと。 ②実習の取り組みについては、訪問巡回指導などを通じて、適宜フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	参加実習と指導案の作成			1クール（1,2日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成
	学習成果	保育実習Ⅰでの学びや課題に基づき、子どもの姿から仮説を立て、具体的なイメージと予測をもとに、それらを指導案と関連づけることができる。			
	予習復習の内容	実習Ⅰにおける課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。			
2回	授業内容	部分実習を通した指導案の実践および全日実習に向けた指導案の作成			2クール（3～5日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施
	学習成果	指導案の作成から実践に向かう中で、実習担当者と討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。また、実施後の課題を具体的に挙げ、日々の保育と関連づけながら以降の実習に参加できる。			
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。実施後も、自らの改善点や課題を整理し、実習担当者と継続的にやりとりを行えるようにしておくこと。			
3回	授業内容	部分実習、全日実習を通した指導案の実践および自らの保育の改善			3クール（6～9日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施 ○保育の改善 教員による実習訪問指導
	学習成果	保育の改善の視点を持ち、計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。			
	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見通しを持って計画的に学びを整理しておくこと。			
4回	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善			4クール（10日目） 実習先からの評価 ○実習全体を通した評価 ○保育の改善
	学習成果	実習全体を通した自らの学習課題について具体的に挙げるができるとともに、他者と共有・討議することができる。			
	予習復習の内容	実習全体を通して「できたこと・できなかったこと」についてまとめておくこと。また、それらを他者と共有できるよう、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。			
5回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
6回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
7回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
8回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
9回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
10回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
11回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
12回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
13回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
14回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
15回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				

科目名	保育実習Ⅲ				担当者	佐藤万利子・山本信						
区分	選択	2	単位	授業回数	おおむね 10日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	90 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	ゼミ担任の研究室への訪問											
専門的 学習成果	①	施設実習の意義と目的を理解し、支援について総合的に学ぶ中で、これまで得た知識や技能を関連づけることができる。										
	②	実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえて理解し、実践に応用することができる。										
	③	観察、記録および自己評価等を踏まえて、具体的な事例を通して学び、実践につなげることができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価を行い、実習の中で課題や認識を明確にした上で、解決に向けて学び続けることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士に必要とされる専門的知識と技能について理解し保育実践につなげて積極的、主体的に子どもの支援ができ、自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げることができる。(専門的学習成果①②③⑤)										
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力や他者と協働する力を持ち地域社会でいかし、保育者の社会的役割について論じることができる。(専門的学習成果④⑤)										
授業概要	保育実習Ⅲは、「保育実習ⅡまたはⅢのいずれかを選択必修」とされている科目である。主として児童福祉施設または障害児支援施設で、保育実習Ⅰで学んだことを踏まえ、さらに深い理解を図るための実習としている。児童福祉施設または障害児支援施設等それぞれの役割、違い、保育士のかかわり方について実践知を得る。さらにこれまで学んだ保育者として総合力をつけることを目的とする。実習の中で実践を体験するとともに、保育者の役割について他者との討議を通して学びを深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		実習状況・訪問指導	30	巡回指導を含め、実習に取り組む姿勢や、子どもとのかかわる姿等、総合的に評価する。								
		実習先からの評価	30	実習Ⅲの評価表に基づき、実習態度・実習内容・実習記録について評価する。								
実習日誌	40	日誌の内容・提出状況・次の保育に生かすことができたかについて評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	聖和学園短期大学		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	厚生労働省		『保育所保育指針』（解説書含む）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①実習に臨むにあたり保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰを踏まえて課題を意識し、必要な教材準備等を事前に行うこと。 ②実習の取り組みについては、訪問巡回指導などを通じて、適宜フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	参加実習と指導案の作成	
	学習成果	子どもの姿から仮説を立て、具体的なイメージと予測をもとに、それらを指導案と関連づけることができる。	
2回	予習復習の内容	実習Ⅰにおける課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。	
	授業内容	部分実習を通じた指導案の実践および全日実習に向けた指導案の作成	
3回	学習成果	指導案の作成から実践に向かう中で、実習担当者と討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。	
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。	
4回	授業内容	部分実習、全日実習を通じた指導案の実践および自らの保育の改善	
	学習成果	計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。	
5回	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見通しを持って計画的に学びを整理しておくこと。	
	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善	
6回	学習成果	実習全体を通じた自らの学習課題について具体的に挙げることができるとともに、他者と共有・討議することができる。	
	予習復習の内容	実習全体を通して自らを振り返り、課題を抽出しておくこと。また、それらを他者と共有できるよう、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。	
7回	授業内容		
	学習成果		
8回	予習復習の内容		
	授業内容		
9回	学習成果		
	予習復習の内容		
10回	授業内容		
	学習成果		
11回	予習復習の内容		
	授業内容		
12回	学習成果		
	予習復習の内容		
13回	授業内容		
	学習成果		
14回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	保育実習指導Ⅱ				担当者	佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩淵 摂子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		担当者（佐々木・中島・岩淵）の研究室への訪問またはメール（授業内で指示する）。										
専門的 学習成果	①	総合的に保育を考え、これまで得た知識や経験と関連づけながら、保育実習の意義と目的について論じることができる。										
	②	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について、実習への見通しを持ちながら、また、実習後の振り返りを行いながら具体的に説明することができる。										
	③	保育の記録や自己評価を踏まえ、保育の改善について実践を通して考え、他者と討議することができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価から、新たな課題や学習目標を明確にし、自らの言葉で表現・説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育士の専門性について理解し、保育実践を通して自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げることができる。（専門的学習成果①②③⑤）										
	(2)	他者との協働や議論を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力や学びに向かい探求を続ける姿勢を養い、自らの力を地域社会で生かすための具体的な方法について述べるることができる。（専門的学習成果①④⑤）										
授業概要	保育実習指導Ⅱは、保育実習Ⅰからの連続性および発展性の観点から位置づけられる。保育実習Ⅰでの学びや自己の学習課題をもとに、保育実習Ⅱに向けた実習目標を設定し、総合的に保育を捉える意識を持ちながら、保育実習の意義と目的について改めて理解を深める。さらに、指導案の立案および子どもの成長や発達にとって意味のある保育や援助の方法について学ぶ。また、実習の総括と自己評価を通して、学びの表現（プレゼンテーション）や他者との討議を重ねながら、新たな課題や学習目標を明確にしていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		事前学習	20	実習課題の設定等、実習に向けた準備について総合的に評価する。								
		事後学習	20	実習状況を踏まえた自己評価・新たな学習課題の設定等について総合的に評価する。								
		実習報告会	30	実習報告会に向けた取り組み（計画・実践・評価・改善）について総合的に評価する。								
授業への取り組み	30	授業全般における意欲・態度や授業に取り組む姿勢により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	聖和学園短期大学		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	厚生労働省		『保育所保育指針』（解説書含む）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①本科目は、保育実践力についての総合的な理解を目的としているため、実習後、実習報告会および交流会の準備・実践が履修上の要件となっている。実習に向けての準備や、実習後における新たな目標設定を効果的に行うために、授業計画に従い週1時間程度の時間外学習を必ず行うこと。 ②フィードバックに関しては、担当教員より、授業内での発言や記述について個別のやりとりを通して、適宜行っていく。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習Ⅱの意義と目的	
	学習成果	保育実習Ⅰでの学びや課題を踏まえて、保育実習Ⅱの意義と目的について説明することができる。	
2回	予習復習の内容	保育実習Ⅰの反省や課題についてまとめておくこと。保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、自らの課題と照らし合わせておくこと。	
	授業内容	保育士の専門性と倫理の理解	
3回	学習成果	保育士の専門性と倫理について、これまでの実習や教科での学びも踏まえて自らの言葉で説明することができる。	
	予習復習の内容	保育士の専門性と倫理について調べておくとともに、自分の考えを含めて、討議できるようにしておくこと。	
4回	授業内容	子どもの状態に応じた適切なかかわりの理解	
	学習成果	保育現場における具体的な子どもの姿を想定し、自らの知識・技能を活かしてどのように子どもと関わるかについて述べるることができる。	
5回	予習復習の内容	保育実習Ⅰにおいて、子どもとの関わりで戸惑いや迷った場面を他者と共有できるようにし、次に同じような場面でどのようにかかわるか具体的に説明できるようにしておくこと。	
	授業内容	環境と生活を通して行う保育の総合的理解	
6回	学習成果	環境や生活を通して行う保育について、具体的な視点や環境構成等について説明することができる。	
	予習復習の内容	子どもとの直接的な関わりだけでなく、間接的な援助の方法について具体的にイメージしておくこと。	
7回	授業内容	保育の全体計画に基づく具体的な計画の理解	
	学習成果	全体的な計画の中に、日々の具体的な計画がどのように位置づけられ、計画の一つ一つが相互に関連しているかについて述べるることができる。	
8回	予習復習の内容	保育の計画（全体的な計画・長期計画・短期計画等）について、確認しておくこと。それぞれの計画が持つ意義や目的について理解しておくこと。	
	授業内容	指導計画の立案・作成の理解	
9回	学習成果	実習Ⅱに向けて、具体的な場面や活動を想定し、実習Ⅰの反省点を踏まえた指導計画を立案・作成することができる。	
	予習復習の内容	実習Ⅰで実施した指導案を見直し、反省点や改善点について具体的に挙げられるようにしておくこと。	
10回	授業内容	記録の意義と実習日誌の記入方法の理解	
	学習成果	記録をすることの意義について理解し、実習日誌の記入・記録にあたっての具体的な方法や留意点について説明することができる。	
11回	予習復習の内容	保育実習Ⅰの記録の反省点・改善点をまとめ、よりよい記録をするために必要な課題について説明することができる。	
	授業内容	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	
12回	学習成果	保育における観察・記録を通して、自らの保育を評価・改善していくプロセスについて、具体的に述べるることができる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅰの自己評価や記録を踏まえて、自らの保育や子どもと向き合う姿勢について振り返り、保育実習Ⅱに向けた課題を挙げられるようにしておくこと。	
13回	授業内容	保育実習Ⅱの課題の作成	
	学習成果	これまでの実習や教科における学習を踏まえて、自らの課題について他者に伝わる表現を用いて記述することができる。	
14回	予習復習の内容	保育実習Ⅰやこれまでの教科で学んだことを踏まえて、保育実習Ⅱで意識して取り組んでいきたいことについて深く考えておくこと。また、設定した課題に、具体的にどのように取り組んでいくかについて説明できるようにしておくこと。	
	授業内容	保育実習Ⅱの留意事項	
15回	学習成果	保育実習Ⅱに臨むにあたっての具体的な留意事項について説明することができる。	
	予習復習の内容	保育所実習Ⅱに対してどのような姿勢で取り組むか、どのような準備が必要かについてまとめておくこと。	
16回	授業内容	実習の総括と自己評価	
	学習成果	実習Ⅱにおける学びについて、客観的に自己を評価し、他者に伝えることができる。	
17回	予習復習の内容	保育実習Ⅱを通して学んだことや反省点について、他者と共有できる形でまとめておくこと。自己評価を踏まえて、今後取り組んでいく課題を挙げられるようにしておくこと。	
	授業内容	地域子育て支援の計画と実践	
18回	学習成果	実習を通して得た学びを踏まえて、他者と協働しながら、地域子育て支援を計画・実践することができる。	
	予習復習の内容	子どもが活動や遊びに取り組む具体的な姿をイメージしながら、地域子育て支援の具体的な内容について案を考え、具体的な進め方について見通しを持てるようにしておくこと。	
19回	授業内容	実習の振り返りと模擬授業を通じた保育の改善：実習報告会	
	学習成果	保育実習を通して得た知識や経験を振り返り、具体的な言葉や自らの姿によって、他者に説明することができる。	
20回	予習復習の内容	保育所実習を通して得られた学びの中で、自分が伝えたいことを選び、具体的な伝え方について考えておくこと。	
	授業内容	実習の振り返りと模擬保育を通じた保育の改善：教材研究	
21回	学習成果	保育所実習を通して得られた学びを、どのような形で伝えることができるかについて、他者と協働しながら討議し、教材研究等を通し、表現することができる。	
	予習復習の内容	保育所実習を通して得られた学びを、どのように模擬保育として具体的に形にしていこうかについて他者と話し合いができるようまとめておくこと。	
22回	授業内容	課題および学習目標の明確化	
	学習成果	実習やこれまでの学習成果を踏まえ、保育者として自分が取り組むべき新たな課題を設定し、具体的な言葉で論じることができる。	
23回	予習復習の内容	これまでの自分の経験や学習について振り返り、自己評価も含めて、自らの課題と今後の目標について説明できるようにしておくこと。	
	事後学習	事後学習 これまでの学習をもとに、自らの課題を、明確な根拠や目標を持って設定しているかについて評価を行う。	

科目名	保育実習指導Ⅲ				担当者	佐藤万利子・山本信						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sato.mariko@seiwa.ac.jp, yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp, kimijima.tomoko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解し、その内容を説明することができる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの実習課題を明確にすることができる。										
	③	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、それらを考慮した行動がとれる。										
	④	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解し、実践できる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に表現することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育実習の意義・目的を理解し、実習中の自らの課題を明確にし、継続的に取り組むことができる。(専門的学習成果①②④⑤に関連)										
	(2)	児童福祉施設の種別ごとの特徴を理解し、それらの施設の社会的役割やニーズを理解したうえで、保育者として子どもの理解や支援につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	保育士資格取得に向けた保育実習Ⅲを行うにあたって必要とされる知識・技術を獲得する。これまでの保育実習Ⅰ及び保育実習Ⅱにおける学びを踏まえ、自身の保育実習Ⅲの期間中継続的に取り組む課題を明確にする。実習施設の種別ごとに、施設の概要や役割を理解する。さらに、他教科における学びとの統合化を図るとともに、実践に必要な知識と技術について学び、保育についての認識を深める。実習後は振り返りと自己評価及び実習報告会を行い、自己の新たな課題や学習目標を明確にする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		事前事後指導 状況	30	事前事後指導への取り組み・意欲・態度、提出物の状況により評価を行う。								
		実習評価	30	実習施設の評価により行う。								
汎用的 学習成果	実習日誌等総合 評価	40	実習日誌、指導案等の内容により評価を行う。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	聖和学園短期大学保育 学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協 議会編	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	厚生労働省	『保育所保育指針解説書』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目の時間外学習として、児童福祉施設の種別ごとの特徴やそこで生活する子どもの支援ニーズについて、これまでの専門教科の学習内容を復習すること。また、指導案の作成、支援のための教材研究なども時間外学習に含む。 ②実習後は学習内容を整理し、疑問点を文献資料等で調べ理解する。また、自己評価を通して新たな課題、学習目標を明確にしておく(復習：週2時間程度)。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習Ⅲの意義と目的	
	学習成果	保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習 の内容	「教育・保育実習ガイドブック」の目的を読み、理解する。	
	授業内容	児童福祉法の理解	
3回	学習成果	養護系の施設について、児童福祉法及び配布資料によって理解を深め、概要を説明することができる。	
	予習復習 の内容	配布資料を整理し、授業内容をまとめておく。	
4回	授業内容	障害者総合支援法の理解	
	学習成果	障害系の施設について、障害者総合支援法及び配布資料によって理解を深め、概要を説明することができる。	
5回	予習復習 の内容	配布資料を整理し、授業内容をまとめておく。	
	授業内容	保育所保育の実際	
6回	学習成果	保育所保育の実際について、実習経験等に基づいてまとめることができる。	
	予習復習 の内容	これまでの保育所保育の資料をまとめておく。	
7回	授業内容	施設保育の実際	
	学習成果	施設保育について、施設の状況や一日の流れを理解し概要をまとめることができる。	
8回	予習復習 の内容	施設保育についての授業内容を振り返る。	
	授業内容	施設の形態と子どもの生活および職員の働き方	
9回	学習成果	施設の形態と、そこでの子どもの生活及び職員の働き方について理解を深め、ワークシートにまとめることができる。	
	予習復習 の内容	自分が実習を行う施設の形態について理解を深めておく。	
10回	授業内容	実習生の立場と実習内容	
	学習成果	実習施設における実習生の立場と実習内容について、ガイドブックより理解を深め、説明することができる。	
11回	予習復習 の内容	ガイドブックを活用し、実習生の立場と実習内容について復習しておく。	
	授業内容	保育実習Ⅲの実習日誌の意義と記録方法	
12回	学習成果	実習日誌の記録方法を振り返り、日誌の意義について説明できる。	
	予習復習 の内容	ガイドブックの「日誌の書き方」を復習しておく。	
13回	授業内容	保育実習Ⅲの方法の理解	
	学習成果	施設での具体的な養護内容、保育士の支援方法や援助技術を理解し、説明することができる。	
14回	予習復習 の内容	養護内容や支援方法、援助技術について理解を深めておく。	
	授業内容	保育実習Ⅲの実習目標と課題の明確化	
15回	学習成果	保育実習Ⅲにおける自己の実習課題を明確にし、文章に表現できる。	
	予習復習 の内容	実習課題をさらに整理し、実習日誌に記入する。	
16回	授業内容	保育士倫理の理解	
	学習成果	守秘義務の遵守、プライバシーの保護の重要性を理解し、説明することができる。	
17回	予習復習 の内容	守秘義務の遵守、プライバシーの保護の重要性について理解を深めておく。	
	授業内容	人権尊重と保育内容・援助の理解	
18回	学習成果	子どもの人権の尊重と保育内容・援助について理解を深め、説明することができる。	
	予習復習 の内容	人権尊重と保育内容・援助について復習しておく。	
19回	授業内容	保育実習Ⅲの心構えと留意事項	
	学習成果	ガイドブックにより、保育実習Ⅲに対する心構えと留意事項を理解し、説明することができる。	
20回	予習復習 の内容	保育実習Ⅲの心構えと留意事項について復習しておく。	
	授業内容	保育実習Ⅲの振り返り	
21回	学習成果	保育実習Ⅲの振り返りを行い、自己課題を発見できる。	
	予習復習 の内容	保育実習Ⅲの振り返りと発見した課題をワークシートに記入しておく。	
22回	授業内容	課題及び学習の明確化	
	学習成果	振り返りにより見えた課題について、どのような学習をすればよいか考察することができる。	
23回	予習復習 の内容	考察内容を記録しておく。	
	事前学習・授業への取り組み 以下の点について、具体的に口頭での説明・文章での記述ができるかについて確認・評価を行う。 ・保育実習Ⅲの意義と目的 ・児童福祉法について ・障害者総合支援法について ・施設保育の実際	事前学習・授業への取り組み 以下の点について、具体的に文章で記述できるかについて確認・評価を行う。 ・実習生の立場と実習内容 ・保育実習Ⅲにおける自己の実習課題	
事前学習・授業への取り組み 以下の点について、具体的に口頭で説明できるかについて確認・評価を行う。 ・守秘義務 ・子どもの人権尊重	以下の点について、具体的に口頭で説明できるかについて確認・評価を行う。 ・守秘義務 ・子どもの人権尊重		保育実習Ⅲの振り返りを記入したワークシートにより確認・評価を行う。

科目名	教育相談				担当者	君 島 智 子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	教育相談の意義と理論を理解し、説明することができる。										
	②	教育相談を進める際に必要となる基礎的知識を身につけ、実践で使うことができる。										
	③	教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性について説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要な、子ども理解や相談援助に関わる知識と技能を習得する。(専門的学習成果①②)										
	(2)	保護者や関係機関、地域との連携のあり方について理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果①③)										
授業概要	幼児教育において、子どもをどう理解し、子どもの成長・発達をどう支援していくかを考えることは保育者にとって重要なことである。本授業では、幼児期における子ども理解のあり方について考え、さらに保育における教育相談（保育カウンセリング）において求められる保育者の姿勢や具体的方法について、事例をもとに学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	子ども理解とその支援のあり方について、学習内容を踏まえた考察ができているか評価する。評価の際の観点は、根拠、論理展開、独創性、体裁である。								
		中間ミニレポート	30	教育相談技術（カウンセリングの技法）の理解について評価する。								
		コメントペーパー	20	毎回の授業内容の理解、態度、関心・意欲について評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①③にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』						ぎょうせい			
	富田久枝・杉原一昭 (編)		『保育カウンセリングへの招待』						北大路書房			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』									
	厚生労働省		『保育所保育指針』									
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①主にレジュメを使用して授業を進める。事前学習として、配付されたレジュメを読み、授業内容を大方つかんでくること。(予習：週15分程度)事後学習として、レジュメとテキストを使用しながら、毎回の授業内容を(他者に説明できるように)自分なりにまとめる。その際出てきた疑問点や質問点については、教員に質問したり自身で資料にあたるなどして解決する。(復習：週45分程度) ②授業の中で扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にフィードバックを行う。また、授業内で記述してもらった課題についてもコメントをつけてフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	保育における教育相談の意義、方法と対象		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	保育における教育相談の意義を理解し、説明できる。		
	予習復習の内容	教育相談の意義、方法と対象について自分の言葉でまとめる。		
2回	授業内容	子どもの発達について		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	乳幼児期の子どもの発達の特徴を説明することができる。		
	予習復習の内容	知的発達および社会性の発達について調べ、年齢ごとの発達の特徴をまとめる。		
3回	授業内容	幼児理解と教育相談		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	教育相談における子ども理解の重要性について説明することができる。		
	予習復習の内容	子ども理解のあり方について自分の言葉でまとめる。		
4回	授業内容	幼児理解の方法と視点		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	子ども理解の方法について、一般的理解と個別的理解のそれぞれの視点から説明できる。		
	予習復習の内容	一般的理解と個別的理解のそれぞれの視点からの子ども理解の方法についてまとめておく。		
5回	授業内容	保育におけるアセスメント		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	アセスメントとして検査法の必要性を理解するとともに、保育記録を活用することの意義について説明できる。		
	予習復習の内容	保育の中での子ども理解について、自身が経験した事例をもとに説明できる。		
6回	授業内容	保育カウンセリングに求められるカウンセリングマインド		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	保育におけるカウンセリングマインドについて説明できる。		
	予習復習の内容	カウンセリングマインドとはどのようなことか、それをどのように保育実践に活かせるかを考え、まとめる。		
7回	授業内容	保育カウンセリングのプロセス		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	保育カウンセリングのプロセスについて理解し、説明することができる。		
	予習復習の内容	保育カウンセリングのプロセスの具体例についてまとめておく。		
8回	授業内容	教育相談の方法①発達相談・発達支援の方法と実際		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	発達相談・発達支援の方法について具体的に説明することができる。		
	予習復習の内容	具体例をもとに発達支援のありかたについてまとめておく。		
9回	授業内容	教育相談の方法②子育て支援の方法と実際		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	保護者支援のあり方について理解し、説明することができる。		
	予習復習の内容	保護者支援としてどのようなことが求められるのかを考え、適切な支援の仕方についてまとめる。		
10回	授業内容	教育相談の方法③カウンセリングの基礎的姿勢と技法		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) 中間ミニレポート(カウンセリング技法について)
	学習成果	カウンセリング技法を身につけ、実際に活用することができる。		
	予習復習の内容	対人援助場面だけでなく、日常場面においても積極的にカウンセリング技法を意識して会話をを行う。		
11回	授業内容	発達相談・発達支援、子育て支援の進め方やそのポイント		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	発達相談・発達支援、子育て支援の進め方やポイントについて説明できる。		
	予習復習の内容	保護者支援において重要なポイントをまとめておく。		
12回	授業内容	教育相談の方法④構成的グループエンカウンター(SGE)とは		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	構成的グループエンカウンターの特徴、進め方について説明できる。		
	予習復習の内容	保育場面での活用方法を考え、まとめる。		
13回	授業内容	構成的グループエンカウンター(SGE)		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	構成的グループエンカウンターによりもたらされる効果について説明できる。		
	予習復習の内容	保育場面での活用方法を考えるとともに、その効果と限界について考察する。		
14回	授業内容	気になる子どもの理解と関わり方		コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問)
	学習成果	多面的・多角的に子どもを理解することの重要性、それに応じた支援について考察できる。		
	予習復習の内容	実際に自分が出会った「気になる」子どもについて多面的・多角的に理解し、子どもの発達援助としてどのような支援が考えられるかをまとめる。		
15回	授業内容	地域・専門機関との連携について		期末レポート(子ども理解とその支援のあり方について、全授業内容を踏まえ考察する課題を課す)
	学習成果	地域・専門機関との連携の方法、対象、形態について説明できる。		
	予習復習の内容	専門機関との連携のあり方について、実例をもとにまとめる。		

科目名	教育実習事前事後指導Ⅱ				担当者	宮本美和子・小森谷一朗						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または担当者のメールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。										
専門的 学習成果	①	教育実習の意義や目的について理解し、教育実習生として遵守すべき義務やその責任について説明できる。										
	②	教育実習の実習内容を理解し、その実践のために必要な知識や技術の習得に向けて、自ら積極的に取り組み、その成果を報告することができる。										
	③	実習で得られた知識と経験を振り返ることができ、具体的に説明・報告することができる。										
	④	実習で得られた知識と経験を振り返りを通し、自らの学習について、新たな目標や課題を具体的に設定することができる。										
	⑤	自らが設定した目標や課題の達成に向けて、学習のプロセスについて自ら計画することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、進路選択における保育職のあり方を考え表現することができる。（専門的学習成果①②）										
	(2)	自らの活動を振り返り、省察を行うことで、課題を探求し、解決するためのプロセスを学び、実践的課題の解決に向けて取り組むことができる。（専門的学習成果③④⑤）										
	(3)	自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。（専門的学習成果②③④⑤）										
授業概要	実習の計画と準備から、実習内容、実習の振り返りと課題探求、課題解決といった一連の実習に係る学習の充実に向けて、教育実習事前指導および事後指導において、専任教員によるグループ別指導および個別指導を行う。実習前指導として、実習計画の作成や課題設定、教材研究、指導計画立案、ロールプレイを行い、実習活動において必要とされる知識や技術を身につける。実習終了後は、反省会を行い、実習を振り返ることで、自らの実習活動における課題探求に取り組み、課題解決に向けた一連の取り組みを身につけ、課題解決のための学習を身につける。その後、実習報告会の準備と、グループ別の反省記録をもとに、報告会の資料を作成し、実習を振り返り、学びの場とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各種レポートの提出と評価								
		提出物	30	受講課題の提出と評価								
	ワークの取 組み	40	受講時の取り組み（参与・貢献）の評価									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	宮城県幼稚園教育実習 連絡協議会編		『教育実習の手引き』									
			『教育・保育実習ガイドブック』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領』									
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』									
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習（15時間）として、実習に必要な教材準備、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認等の事前学習、指導案の作成、教材研究、学習の成果と課題の整理・反省のまとめとして事後学習を行うこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	教育実習の意義と目的		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価
	学習成果	教育実習の意義と目的について説明することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
2回	授業内容	実習準備、課題の作成		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷実習課題の提出
	学習成果	実習に必要な準備について説明ことができ、計画と課題を作成することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
3回	授業内容	指導案の作成と教材研究		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画を作成ことができ、それに伴う教材研究について計画することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
4回	授業内容	構想を展開するための教材研究		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画の展開を構想するための教材研究を行うことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
5回	授業内容	構想を展開するための指導計画とロールプレイ		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	教材研究に基づく指導案の作成ができ、ロールプレイを行うことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
6回	授業内容	子どもの発達を踏まえた計画の必要性		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	子どもの発達を踏まえた計画について、その必要性を理解し、説明することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
7回	授業内容	指導計画と子どもの発達をふまえた考察の観点を学ぶ		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画の子どもの発達を踏まえた考察の観点について説明することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
8回	授業内容	実習の振り返りと自己評価		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己評価チェックリストの提出
	学習成果	実習の振り返りを行うことができ、客観的視点での自己評価を行うことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
9回	授業内容	自己の課題の明確化		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷振り返り報告書の作成と提出
	学習成果	実習の振り返りをもとに、自らの新たな課題について、具体的に示すことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
10回	授業内容	反省と自己課題の発見		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷振り返り報告書の作成と提出
	学習成果	自らの示した課題について、その解決のためのプロセスを自ら考えることができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
11回	授業内容	事務手続きの把握		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価
	学習成果	幼稚園教諭免許状取得に向けた事務手続きについて理解し、具体的に取り組むことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
12回	授業内容	実習園による実習評価のフィードバック		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	実習施設からの評価のフィードバックをもとに、自らの課題を明確にできる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
13回	授業内容	自己評価と実習評価のずれの確認		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	自己評価と実習評価の乖離を確認し、自らの課題について、示す事ができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
14回	授業内容	体験の振り返りと自己課題の明確化		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	実習の体験をグループワークにおいて振り返り、自らの課題をメンバーに報告し、メンバーの課題について、提案することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
15回	授業内容	子ども理解と学びの共有（実習報告会）		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷実習報告会報告書
	学習成果	実習報告会において、自らの学びを報告ことができ、メンバーと共に協働的に学びを深めることができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		

科目名	教育実習				担当者	宮本美和子・小森谷一朗						
区分	選択	4	単位	授業回数	おおむね 20日	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または担当者のメールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。										
専門的 学習成果	①	保育者としての業務や、学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、説明することができる。										
	②	実習活動での様々な場面において、自身の保育活動を客観的に評価しながら、幼児と適切に関わることができる。										
	③	保育形態や保育展開、環境構成の仕組みを实地に即して理解することができ、実習生として保育活動に取り組むことができる。										
	④	幼児の体験との関係を考慮しながら適切な場面で学習理解に向けた情報機器を用いることができる。										
	⑤	実習における自らの課題を振り返り、翌日以降の保育活動に適切に活かすことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、保育職のあり方を考え表現することができる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	自らの活動を振り返り、省察を行うことで、課題を探求し、解決するためのプロセスを学び、実践的課題の解決に向けて取り組むことができる。（専門的学習成果②③④⑤）										
	(3)	自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。（専門的学習成果②③⑤）										
授業概要	聖和幼稚園で行う2日間の予備実習と、5月下旬から6月下旬にかけての4週間に渡る各幼稚園にて行う約20日間の教育実習の双方の活動にて、本授業は構成される。この期間は、実習施設となる各幼稚園の担当教諭のもと、保育者として実際に保育活動を体験する。そして、そのような実習活動を通して、幼児の姿や活動、保育の流れと展開、幼児との接し方、教員（保育者）の役割と責任、保育環境の構成と整備、保育者との関わり方（同僚との連携）といった保育の基本について学ぶ。また、自らの実習活動を常に振り返り、自身の保育実践の課題を明らかとし、自らの保育活動の改善を図る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		施設評価	50	実習施設による実習評価と報告、出勤も含めた実習活動状況に基づく								
		学内評価	50	実習記録（実習日誌、指導計画、実習報告等）及び実習巡回指導結果に基づく								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②・③・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	宮城県幼稚園教育実習 連絡協議会編		『教育実習の手引き』									
	聖和学園短期大学保育 学科		『教育・保育実習ガイドブック』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領』									
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』									
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①本授業では、時間外学習（120時間）として、実習に必要な教材準備、教材研究、指導計画作成、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認等といった事前学習、実習記録や報告、学習の成果と課題の整理、反省とまとめといった記録を含む事後学習を行うこと。 ②実習活動に関する取り組みにおいては、実習巡回指導（訪問指導）などを通じて、適宜フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
予備実習	授業内容	聖和幼稚園での2日間の実習による保育体験	
	学習成果	幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解し、補助的な立場で遊びや生活を通して幼児とかわる中で一人一人を理解すると同時に、幼児の発達の実態や課題を把握し、援助・指導の在り方を記録し、報告することができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
1週目 (1-5日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（1週目）	
	学習成果	幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解し、補助的な立場で遊びや生活を通して幼児とかわる中で一人一人を理解すると同時に、幼児の発達の実態や課題を把握し、援助・指導の在り方を記録し、報告することができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
2週目 (6-10日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（2週目）	
	学習成果	幼稚園教諭の専門性や職務内容及び役割などに関して説明することができると共に、保育技術の習得に向けて、実習生自身が様々な働きかけを子どもや保育者に対して行うことができる。また、幼稚園教諭の保育を視点を持って観察し、事実 に即して記録することが出来る。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
3週目 (11-15日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（3週目）	
	学習成果	幼児一人一人の個性や特徴、発達課題を理解したうえで、個に応じた援助を実践することができる。また、指導計画の立案や活用方法を学び、保育を実践することができる。その他、保育に必要な基礎的技術（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を实地に即して身に付け、用いようとする ことができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
4週目 (16-20日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（4週目）	
	学習成果	保育に必要な基礎的技術（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を实地に即して身に付け、保育実践に活用することができる。幼稚園教育の基本を理解し、様々な場面で、適切に幼児と関わる ことができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の内容		